平成 27 年度高等学校教育課程課題研究

研究報告（公民科）

公民研究班

主権者としての自覚と社会参画の力を育む教育の充実を目指して

愛知県立安城東高等学校長　　杉浦　孝夫

平成27年６月に、国政選挙・地方選挙における選挙権年齢を18歳以上へと引き下げる公職選挙法改正案が可決した。その結果、今年夏の実施が見込まれる参議院議員選挙では、高校３年生の一部が実際に投票所へ足を運び、主権者として一票を投じる。高校の同じ教室内に有権者と有権者でない生徒が混在する状況はこれまで経験がなく、実際の選挙公示後には混乱が生じる可能性もある。高校においては、選挙に関するルールを周知するとともに、生徒の政治的教養を高め、主権者としての自覚と社会参画の力を育む「主権者教育」がより一層重要となっている。

こうした政治状況の大きな変化に対応するため、総務省、文部科学省は、副教材『私たちが拓く日本の未来－有権者として求められる力を身に付けるために－』を全ての高校生に配布し、政治的教養を育む教育の一層の推進を図っている。高校では、各教科、ホームルーム活動、総合的な学習の時間等の機会を利用して、生徒に政治参加の意義を理解させ、有権者として主体的に判断する力を身に付けさせることが求められている。特に「良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」ことを各科目の共通の目標とする公民科への期待は大きく、公民科の教員は、各学校における主権者教育の指導的な役割を担うとともに、具体的な指導方法や評価方法についてより一層の工夫・改善を図る必要がある。

一方、中央教育審議会の教育課程企画特別部会では、学習指導要領の改訂に向けての審議が進められている。次期改訂に向けた検討では、育成すべき資質・能力を三つに整理し、学びの量とともに質や深まりを図る指導方法として、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びである、いわゆる「アクティブ・ラーニング」についての議論が重ねられている。この「アクティブ・ラーニング」は、大学教育の質的転換を目指して取り入れられた手法ではあるが、今後、高校における授業形態の主流となることが予想される。

高等学校課題研究公民研究班では、従前より「課題を探究する学習」について様々な角度から研究を行い、生徒の主体的・協働的な学習（「アクティブ・ラーニング」）も取り入れた学習指導例を作成し提示してきた。授業で使える教材を提供するという基本的な方針を踏襲しながら、今年度は、社会からの要請に応えるため、「主権者教育」や「シチズンシップ教育」にテーマを絞り、主権者としての自覚と社会参画の力を育む主権者教育の指導方法と評価について研究した。

課題探究学習の重要性や「アクティブ・ラーニング」の有用性を理解していたとしても、実際に授業計画を練り新たな教材を用意するには、非常に多くの時間と労力を必要とする。そのため、日々の授業では、現状を変えられない教員が多いのも現実であろう。そう感じている多くの公民科教員に手にしてもらいたいのが、この研究報告書である。生徒の政治的教養を育むのみならず、一人一人の可能性を一層伸ばし、「生きる力」を育むためにも、例示した学習指導例を参考にして、まず最初の一歩を踏み出すことから始めてほしい。そして、各学校の実情や教員の個性に合わせて手を加えながら、自分なりの指導方法を確立してもらえればと考えている。

本研究の成果が、より多くの学校で実践され、生徒の主体的な学びのために多少なりとも寄与できれば幸いである。

ー 目　次 ー

		ページ
1　巻　頭　言	班長　杉浦孝夫	0－1
2　目　次		0－2
3　研究員名簿		0－3
4　研究会の活動概要		0－4
5　研究のまとめ		
・「現代社会」班		Ⅰ－1～27
・「倫理」班		Ⅱ－1～25
・「政治・経済」班		Ⅲ－1～26

平成２７年度　県立学校教育課程課題研究（公民研究班）

研　究　員　名　簿

【指導・助言者】

愛知県教育委員会高等学校教育課　　堀田庸平　指導主事

愛知県総合教育センター基本研修室　　舟橋陽一　研究指導主事

愛知学院大学　国際研究センター所長　梅川正美　教授

愛知学院大学　法学部　　鈴木慎太郎　准教授

【研究員】

	所属・職名	氏名
運営委員	県立　安城東　高等学校・校長	杉　浦　孝　夫
	県立　旭　丘　高等学校・教頭	杉　浦　義　之
	県立　西　春　高等学校・教頭	岸　田　　隆
	県立　蒲　郡　高等学校・教頭	壁　谷　勝　義
研究員	県立　名古屋西　高等学校・教諭	後　藤　賢　二
	県立　南　陽　高等学校・教諭	加　古　琢　磨
	県立　津島東　高等学校・教諭	森　岡　剛　洋
	県立　大　府　高等学校・教諭	相　原　　正
	県立　岡崎北　高等学校・教諭	相　原　久　美
	県立　碧　南　高等学校・教諭	寄　河　忠　臣
	県立　安城南　高等学校・教諭	鈴　木　啓　仁
	県立　吉　良　高等学校・教諭	井　澤　和　史
	県立　知立東　高等学校・教諭	増　井　強　志
	県立　豊　丘　高等学校・教諭	野　﨑　武　史
	県立　豊橋南　高等学校・教諭	石　田　桂　子
	県立　新城東　高等学校・教諭	大　谷　敏　之
合　計	１６　名	

－研究会の活動概要－

〔第１回研究会〕

日時：平成２７年　６月２４日（水）　　１４時～

会場：愛知県総合教育センター

内容：本年度の研究内容及び実施計画についての検討

（班編成と班別の実施計画の検討）

〔第２回研究会〕

日時：平成２７年　９月　４日（金）　　１４時～

会場：愛知県総合教育センター

内容：班別の研究討議及び全体会での調整

（各自の教材の提示と検討）

〔第３回研究会〕

日時：平成２７年１０月１６日（金）　　１４時～

会場：愛知県総合教育センター

内容：班別の研究討議及び全体会での調整

（各自の教材の実践報告と反省）

〔第４回研究会〕

日時：平成２７年１２月　１日（火）　　１４時～

会場：愛知県総合教育センター

内容：班別の研究内容の確認及び全体会での調整

（研究報告作成上の留意点の確認）

〔第５回研究会〕

日時：平成２８年　１月２６日（火）　　１３時～

会場：愛知県図書館

内容：研究報告の最終確認及び本年度の研究の総括

〔 現代社会 班 〕

内　容

1　授業実践例紹介

2　授業実践例

①　テーマ「架空政党への模擬投票」
－自分の考えと政党の考えを比較する－

②　テーマ「主権者としての意識を高めるための実践」
－「公正」な選挙制度についての考察による主権者意識の育成－

③　テーマ「能動的な学びを活用した主権者教育」
－「ローカルマニフェスト」の作成を通して政治参画意識を育む－

④　テーマ「問題解決学習を活用したシティズンシップ教育」
－地域社会を担う市民意識を涵養させる授業の工夫－

研 究 員	愛知県立大府高等学校	相原　正
	愛知県立岡崎北高等学校	相原　久美
	愛知県立安城南高等学校	鈴木　啓仁
	愛知県立新城東高等学校	大谷　敏之
運営委員	愛知県立蒲郡高等学校	壁谷　勝義

「現代社会」班

1　授業実践例紹介

選挙権年齢を現在の「20歳以上」から「18歳以上」へと引き下げる改正公職選挙法は、平成27年６月17日に参議院本会議において全会一致で可決成立した。選挙権の拡大は、戦後の民主化政策の一環として、選挙権を20歳以上の男女へと拡大した1945年以来、実に70年ぶりのことである。18、19歳にも選挙権が与えられることにより、有権者が約240万人増加するという。

選挙権年齢の引下げに伴い、総務省と文部科学省が作成した副教材『私たちが拓く日本の未来－有権者として求められる力を身に付けるために－』が全国の高校生に配付された。高校生に有権者として求められる力を身に付けさせるため、学校全体での主権者教育の取組が求められているが、公民科はその中核となる教科として期待されている。現代社会の研究員は、そのことを十分自覚したうえで研究し、いずれの実践例も主権者教育、とりわけ政治参画意識の向上に結び付くものとなった。

授業実践例①は、平成26年の衆議院議員総選挙における投票率が、過去最低の52.66％を記録したことを踏まえ、意識調査の「投票へ行かなかった理由」をヒントに、「政策を理解し適当な政党を見付けることができれば政治参加につながる」との仮説を設定している。まず、「政策を理解」するために、日本で政治的な争点となっている10の論点について、そのメリットとデメリットについて考察し、自分の考えを整理させている。さらに「適当な政党を見付ける」ために、先の総選挙に立候補した10の政党の政策を比較し、自分の考えと近い政党を選択させようとしている。授業の最後に記述させた質問では、「ぜひ投票したい」、「やや投票したい」が合わせて80％を超える結果となった。生徒に投票所へ足を運ばせようとするための、明確でストレートな試みである。

授業実践例②は、公正な選挙制度について考察させることにより、主権者としての意識の向上を目指した２時間の授業実践である。日本の選挙制度の歴史的経緯や、現行の選挙制度についての基本的な知識を身に付けさせるための簡単なワークシートから始まり、思考力、判断力、表現力を養うために、各自で「公正な選挙の条件」について考えた後、グループでの討議へと授業を展開させている。さらには、日本の選挙制度の問題点のうち、自らが気付いた点について調べ、具体的な解決策を提案させている。解答例１～３を見ると、生徒の思考が深まっていることが分かる。生徒はその中で、「投票率の低さ」、「一票の格差」、「外国人の参政権」など日本が抱える選挙制度の問題点を的確に指摘している。

授業実践例③は、市長選に立候補するという前提で選挙公約を作成させることにより、政治参画意識を高めさせようとする取組である。工夫を凝らした仮想都市の条件を提示し、その都市の問題点を解決するための手立て、将来の発展に向けた政策などの各自の提案をグループに持ち寄り、よりアピール度の高い「ローカルマニフェスト」づくりへと発展させている。また、ＩＣＴ機器を利用した発表や相互評価、投票へと展開しながら、思考力、判断力、表現力を高めさせるよう工夫している。仮想都市の条件を他の市町村のものとして設定すれば、どの学校においても取り組むことができる実践例である。

授業実践例④は、仮想都市ではなく、学校が立地し、多くの生徒が居住する身近な地域を活性化させるための「ビジネスプラン」を作成させ、市民意識を涵養しようという試みである。こうした地域が抱える問題は、教師があえて指摘しなくても、生徒たちは共有している。この学校では、地域の一員として重要な役割を果たしている卒業生が多いようである。首長や公務員ではなくとも、一市民として、地域の活性化に貢献できるという意識を身に付けさせようとしている。生徒がプランを作成したり、相互評価を行ったりするための詳細なワークシートが用意され、「アクティブラーニング」につながる授業実践例である。

これらの授業実践例が、「18歳選挙権」を踏まえた主権者教育のより一層の充実に大きく貢献するものと期待している。

2 授業実践例①

架空政党への模擬投票

ー自分の考えと政党の考えを比較するー

1 指導のねらい

「高等学校学習指導要領解説」には、「現代社会」の「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」、「イ　現代の民主政治と政治参加の意義」における内容の取扱いの中で、「例えば、民主政治の下では、政治参加は国民の重要な権利であると同時に義務とも言えるものであることを踏まえ、主権者としての在り方生き方を考察させることなどが考えられる」と示されている。

しかし、現実には投票率が低く、「第46回衆議院議員総選挙全国意識調査」（明るい選挙推進協会）においては、投票に行かなかった理由として、「適当な候補者も政党もなかったから」(26.1％)、「政党の政策や候補者の人物像がよく分からなかったから」(19.1％)などが挙げられている。一方、政策を理解し、自分の考えに近い政党を見つけさえすれば、政治参加の可能性が高くなるとも言える。

本実践では、先の衆議院総選挙で各政党の掲げた政策の論点について調べさせ、自分の考えと政党の考えを比較して考察させた後、架空政党の中から自分が投票したい政党を選ぶ活動を通して、政治参加についての自覚を深めさせることを試みた。

2 教材

教科書「高等学校　現代社会」（第一学習社）
自作プリント（Ⅰ・Ⅱ）

3 指導計画（2時間）

(1) 第1時限までの課題

プリントⅠにある論点（ア～コ）から、興味があるものを一つ選ばせる。その際、次回は同じ論点を選んだ4人一組のグループで活動することについても触れる。

(2) 第1時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導　入 5分	授業内容の確認	・本時の授業内容について確認する。	・調べた論点が同じ者どうしで4人一組のグループをつくる。	
展　開 20分	調べた論点についての考察	・各グループで、その論点のメリットとデメリットを考察し、プリントⅠにまとめた後で板書する。	・要点のみを板書するように伝える。 ・机間巡視をしながら、意見が偏り議論が深まらないグループには、あえて反対の考えを示す。	
まとめ 25分	メリットとデメリットの発表	・各グループでまとめた内容を発表する。 ・他のグループの発表を聞き、プリントⅠにまとめる。	・最後にプリントⅠを回収する。	

(3) 第２時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導　入 10分	前時の復習	・前時の内容を確認する。	・プリントⅠを返却する。 ・プリントⅡを配布する。	
展　開 30分	各論点の賛否	・ア～コの論点に対する自らの賛否をまとめる。 （プリントⅡのA）	・プリントⅠを参考にするよう指示する。 ・正解、不正解はないことを強調する。	
	政党の考えとの比較	・政党の考えと自分の考えを比較する。 （プリントⅡのB）		
まとめ 10分	投票行動	・投票したい政党を決め、選んだ理由などをまとめる。 （プリントⅡのC・D）	・自らの考えと一致した論点、一致しない論点、特に重視する論点など多角的に捉えて決定するよう促す。 ・最後に、プリントを回収する。	◎

本時の評価規準　（◎について）

【評価の観点】「思考・判断・表現」　　【評価方法】プリントⅡのC

【評価規準】

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・政党を選んだ理由について、複数の論点を根拠として記述している。
A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・政党を選んだ理由について、自らの考えと一致する論点だけでなく、一致しない論点の内容も踏まえて、具体的に記述している。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・政党を選んでいるが、選んだ理由について、何も記述していない。 →別の観点を例示し、理由についての考察が深まるように促す。

4　指導上の工夫

(1) グループでの意見交換を活発にするため、各自で調べた内容をもとに、それぞれの論点のメリット・デメリットについて考察し、発表させるなど、言語活動の充実を図った。

(2) 比較する論点については、先の衆議院総選挙で論点になったものから選んだ。それらの論点について、メリットとデメリットを示した上で、生徒自身が自らの考えを明らかにし、政党の考えと自分の考えを比較しながら、投票したい政党を選択できるよう工夫した。

(3) 政策の論点が一目で分かるなど、自分の考えと比較しやすい資料として、一つの軸で示される表を用意した。

5　評価

本実践は、「現代社会」の「世論形成と政治参加」のまとめとして、３年生６クラス（236名）において実施した。１時間目までの課題として、ア～コの論点について調べ、１時限目に、その論点のメリットとデメリットについてグループで考察させた。論点のメリット・デメリットがどちらか一方に偏って議論が深まらないグループには、あえて

反対の考えを示すことにより、多面的・多角的に捉えられるよう工夫した。

２時限目には、まず、プリントⅡのＡで自分の考えを確認させ、Ｂで政党の考えと比較させた。最も多くの生徒と考えが一致した政党は⑧で、次は①となった。その後、プリントⅡのＣにより、投票したい政党とその理由について考察させた。その際、単に自分の考えと論点が一致した数を基準とするのではなく、自分が特に重視する論点と一致したかどうかを基準とするなど、多面的・多角的な視点から選ぶことの重要性についても強調した。

授業後の評価の結果、「Ｂ」評価は 126 名、「Ａ」評価は89名、「Ｃ」評価は21名となった。「Ｃ」評価の生徒には、その後、別の観点を例示し理由を考察できるよう促した。実際には、投票する政党を決定する理由に「何となく」と書いた生徒は皆無であり、様々な観点に基づき、冷静で客観的に判断して理由を示した生徒が多かった。

最後に、プリントⅡのＤで投票したいかどうか確認したところ、「ぜひ投票したい」が65名、「やや投票したい」が 130 名、「やや投票したくない」が28名、「投票したくない」が13名となった。「やや投票したくない」、「投票したくない」と答えた理由は、「投票所まで行くことが面倒であり、また自分の一票では結果は変わらない」というものが多かった。一方で、「ぜひ投票したい」、「やや投票したい」と答えた理由として、「政策を比較することで自分が応援したくなる政党が分かったから」というものもあった。こうした結果は、政党の考えと自分の考えを比較することが、生徒の投票に対する意識を高めさせる可能性があることを示している。

6　今後の課題

(1) 政党と生徒の考えを一つの軸で表したこと

本実践では、政策の論点について、政党の考えと自分の考えを、「非常に賛成」から「非常に反対」までの４段階で比較するための軸で表した。これは、政党の考えと自分の考えを明確にし、容易に比較させるためには効果的であった。しかし、この方法では、条件付きの賛否や部分的な賛否に基づいた判断ができないため、多角的・多角的な視点からの考えを反映させることができないという課題が残った。

(2) 実際の政党ではなく架空政党への投票を行ったこと

今回の資料で示した①～⑩の政党は、前回の衆議院選挙で届け出をした以下の政党（略称も含む）である。

①：自由民主党、②：民主党、③：維新の党、④：公明党、⑤：次世代の党、
⑥：共産党、⑦：生活の党、⑧：社会民主党、⑨：新党改革、⑩：幸福実現党

（平成26年12月４日「朝日新聞朝刊」より）

今回、生徒に実際の政党名を提示しなかったのは、政党に対するイメージが生徒の判断に影響を与えないようにするためである。しかし、架空政党への投票によって、政策重視の投票がなされる反面、リアリティに欠け、政策実行力や期待度、現政権への賛否などを勘案した投票ができないという点も指摘できる。また、政治的中立性を確保しつつ、できるだけ生徒が政策を比較しやすい資料を提示することの難しさも感じた。

(3) 投票結果の振り返りを行わなかったこと

本実践では、確保できる時間数が限られていたことから、学習の振り返りを行えず、投票の結果を後日示しただけに終わってしまった。学習の振り返りにおいて、投票の結果を分析することにより、政治参加についての自覚をさらに深めさせることができたのではないかと考える。

プ リ ン ト Ⅰ　　（ゴシック体は生徒の記述例）

以下の論点についてメリットとデメリットを挙げなさい。

ア　長期的には消費税率が10％より高くなること。

メリット

・国債残高が減る。または増加幅が減少する。

・捕捉率が公平な消費税を歳入の柱にするべきである。

・所得税や法人税を上げると、経済が活性化しない。

デメリット

・逆進性がある税金で貧しい人が苦しむ。所得税や法人税を上げるべきだ。

・景気が悪化し、税収が減ることがある。

イ　法人税率を引き下げること。

メリット

・大企業の資金が増加し、賃上げや設備投資の増加が期待できる。

・外資系企業の日本誘致が期待できる。

デメリット

・中小企業を中心とした赤字の企業に恩恵がない。

・大企業が得をして、消費増税で貧しい人が苦しむのはおかしい。

・大企業は内部留保を増やすだけだ。

ウ　審査合格の原発を運転再開すること。

メリット

・現段階では太陽光などに依存するより電気料金が下がるはずだ。

・審査に合格しているのだから安全なはずである。

・火力発電への依存度を下げることで、二酸化炭素排出を減らせる。

デメリット

・安全だと言っていたのに事故が起きた。

・事故処理の費用まで考慮すると原子力発電は割高だ。

・原発がなくても電力供給は可能である。

・太陽光などのクリーンエネルギーに転換していくべきだ。

エ　集団的自衛権を行使すること。

メリット

・諸外国は行使する権利をもっており、国連憲章でも認められている。

・米国と信頼関係を深め、対等な関係になるためにも必要である。

・日本の平和がより保障され、より深い国際協力ができる。

デメリット

・憲法違反である。

・米国の戦争に巻き込まれ平和が危うくなる。

・軍事ではない日本らしい国際協力のあり方を模索すべきだ。

オ　憲法を改正すること。

メリット

・一から日本人の手で憲法をつくるべきだ。

・新しい人権などの規定を追加すべきだ。
・今の憲法は９条２項と自衛隊の関係など現実に即してない。

デメリット

・この憲法のおかげで戦後の平和があった。
・戦争ができる国にしてほしくない。

カ　防衛力を強化すること。

メリット

・抑止力が高まりより平和が保障される。
・基本的に国は自分で守るべきだ。

デメリット

・周辺諸国との緊張が高まり、戦争をする危険性が高まる。
・歳出が増え国債残高がさらに増加する。

キ　首相が靖国参拝すること。

メリット

・日本のために戦った人に敬意を示すのは当然だ。
・日本のことであり、他国に配慮するのは弱腰過ぎる。

デメリット

・他国との緊張が高まる。中国や韓国の思いも理解すべきだ。
・経済面に悪影響を与えてまで必要なことか。

ク　夫婦が望む場合別姓を法律で認めること。

メリット

・自由度が高まるのは良いことだ。
・別姓にしても大きな問題は無いと思う。

デメリット

・今までの伝統が壊される気がする。
・子どもが混乱する可能性がある。

ケ　日本でカジノを解禁すること。

メリット

・新たな成長産業が生まれることになる。
・規制緩和はどんどん進めるべきだ。

デメリット

・周辺の治安が悪化する。
・ギャンブル依存症の人が増えるのではないか。

コ　道徳教育を充実させること。

メリット

・いじめの問題が多発しておりその対策として必要だ。
・モラルの低下に歯止めがかかる。

デメリット

・心の問題に国家が介入しすぎるのはおかしい。
・戦争ができる国にするための道具にされるのではないか。

プリントⅡ　　（ゴシック体は生徒の記述例）

A　以下の論点について、例に従い「非常に賛成」～「非常に反対」から自分の考えに○を付けなさい。

例	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対

ア　長期的には消費税率が10％より高くなるのはやむを得ない。

賛成		①②③④⑤⑨	⑦	⑥⑧⑩	反対

イ　法人税率を引き下げるべきだ。

賛成	⑤⑩	①③④⑨	②⑦	⑥⑧	反対

ウ　審査合格の原発は運転を再開すべきだ。

賛成	①⑩	④⑤	②	③⑥⑦⑧⑨	反対

エ　集団的自衛権行使の閣議決定を評価する。

する	①④⑤⑨⑩			②③⑥⑦⑧	しない

オ　憲法を改正すべきだ。

賛成	①③⑤⑨⑩	②④⑦		⑥⑧	反対

カ　防衛力を強化すべきだ。

賛成	①③⑤⑨⑩	②④⑦		⑥⑧	反対

キ　首相は靖国神社に参拝すべきだ。

賛成	⑤⑩	①⑨	③	②④⑥⑦⑧	反対

ク　夫婦が望む場合別姓を法律で認めるべきだ。

賛成	④⑥⑧	②⑦⑨	①③⑩	⑤	反対

ケ　日本でもカジノを解禁すべきだ。

賛成	③	①⑤⑨	②④⑦⑩	⑥⑧	反対

コ　道徳教育を充実すべきだ。

賛成	①⑤⑩	②③④⑦⑨	⑥	⑧	反対

（平成26年12月４日「朝日新聞朝刊」をもとに作成）

B　以下の内容を見て、①～⑩の政党と自身の考えが一致した数を集計しなさい。

①：　2　回	②：　4　回	③：　3　回	④：　1　回	⑤：　0　回
⑥：　3　回	⑦：　3　回	⑧：　3　回	⑨：　2　回	⑩：　2　回

C　あなたは①～⑩のうちどの政党に投票しますか。また、それはなぜですか。

政党名：⑦党
理由　：**自分の考えと一致した数が最も多い政党は②党だったが、賛成・反対という二つのくくりで見たら、⑦党と一致した回数が多かった。また、私はアの論点を重視するが、②党よりも⑦党の方が私の考えに近いから。**

D　あなたが選挙権を持った場合、投票したいですか。

・ぜひ投票したい　・やや投票したい　・やや投票したくない　・投票したくない

理由
それぞれの政党の考えと、自分の考えと近い政党が分かった。分からない状態で投票しても意味がないと思うが、分かると投票する価値がある気がするから。

授業実践例②

主権者としての意識を高めるための実践

―「公正」な選挙制度についての考察による主権者意識の育成―

1　指導のねらい

公職選挙法改正に伴い、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられ、これまで以上に高校での「主権者教育」の必要性が高まっている。これからは、選挙に関する知識を得るだけにとどまらず、自分の考えや意見を他者に伝える力や、異なる意見を尊重し、それらを調整する能力がより求められるであろう。

「高等学校学習指導要領」には、「国民主権が民主政治の根幹であり、（中略）我が国においては基本的に国会を中心としつつ様々な政治参加の方法を通じて国民主権が実現される仕組みになっていることについて理解を深めさせ、主権者としての自覚を培うようにすることが大切である。」とある。

ここでは、「公正」な選挙の条件についての考察を通して、異なる意見を尊重する態度や「主権者としての自覚」を育成するための授業実践についてまとめたい。

2　教材（参考資料）

(1) 教科書『現代社会』（数研出版）
(2) 図説『最新図説　現社』（浜島書店）
(3) 『イギリスのシティズンシップ教育』（新井浅浩著「私たちの広場」294－299 号）
(4) ワークシート

3　指導計画（２時間）

(1) 第１時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 （5 分）	グループ分け 本時の予告	・６名程度のグループをつくる。	・日本は代議制民主主義を採用しているため、選挙制度が重要であることを確認する。	
展開 （40 分）	日本の選挙制度について知る	・日本の選挙資格の推移をワークシート[1]に記入する。 ・現在の日本の選挙制度をワークシート[2]に記入する。 ・「公正」な選挙の条件について、ワークシート[3]に記入しながら考える。 ・記入したら、グループで発表し、意見がほぼ一致した項目と、異なった項目を確認する。ここでは、意見が異なった項目に注目する。 ・意見が異なる項目について、各自が自分の考えを自由に述べ合う。	・教科書・資料集を使って、ワークシートに記入させる。 ・自分の考えを記入させる。 ・自分と考えが異なった項目に注目させる。	

		・現在の日本の選挙をめぐる問題点を、資料集を参考にしながらグループで話し合う。その中から、テーマを一つ選ぶ。	・特に自分たちが関心をもったテーマを一つ選ばせる。	
まとめ (5分)	本時のまとめ	・次回の学習に向けての課題について確認する。	・意見の異なる項目と、自分たちが選んだ選挙をめぐる課題について、次回までに調べておくよう指示する。	

(2) 第2時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	課題の確認	・本時の学習内容を示す。		
展開 (35分)	課題の発表 選挙制度の問題点についてのまとめ	・ワークシートに記入してきた選挙制度の問題点についてグループで発表する。 ・意見が異なった項目や選挙制度の問題の解決策について話し合い、ワークシートに記入する。	・グループで一つの解決策をまとめるように促す。	
まとめ (10分)	まとめ	・学習を通して、自分の考えがどのように変化したかをワークシートに記入する。	・ワークシートを回収する。	◎

本時の評価規準（◎について）
【評価の観点】「関心・意欲・態度」
【評価方法】ワークシート
【評価規準】「公正」な選挙の条件について考察することを通して、主権者としての自覚が高まっている。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・「公正」な選挙の条件について考察することを通して、主権者としての自覚を高めている。
A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・「公正」な選挙の条件について考察することを通して、他者の意見を尊重しながらその問題点の解決策を模索するとともに、主権者としての自覚を高めている。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・「公正」な選挙の条件について考察することができず、主権者としての自覚が高まっていない。→グループで出された意見を踏まえて議論するように促す。

4 指導上の工夫

(1) 議論が深まりそうな項目を挙げて考察させることにより、グループでの意見交換が活発になるよう工夫した。

(2) 意見の異なる項目や選挙制度の問題点を解決する方法について話し合うことにより、自分の意見を伝える力や他者の意見を尊重する姿勢を育むことを目指した。

5　評価

(1) 今回の実践では、生徒たちが話合いを通して、様々な考え方について知る中で、自分の考えが変化することに着目させた。評価する際も、生徒自身の意識の変化に重点をおいた。

(2) 主権者としての自覚の高まりを評価規準とした。

生徒は、選挙制度の問題点について調べることにより、選挙への関心を高めたようである。多くの生徒が「B」(おおむね満足できる状況) の評価となるレポートを作成していた。生徒の感想には、

・「私は今まで、選挙は「民主的な選挙の原則」が完璧に守られていると思っていましたが、選挙が本当は平等でなかったり、投票率が低下したりするといった問題点をたくさん知りました。今回、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられたので、いろいろな問題を解決していけるのではないかと思いました。」

・「一つのことについて話し合ってみると、今の政治に対する様々な疑問や関心がわいてきました。「投票に行った方がいいのかなあ」ではなく、「投票に行こう、行くぞ」という積極的な気持ちが生まれました。」

というものもあった。選挙の課題について考察し、話し合いながら他の生徒の様々な意見にも触れる中で、主権者としての自覚が高まったのではないか。

(3) 今回は、2時間での実践であったが、年間を通じて選挙制度の問題について調べさせる (長期休暇の課題とする、身近な人の意見を聞いてレポートするなど) ことにより、主権者としての自覚がより高まるのではないかと考える。

6　今後の課題

多くの生徒は、小・中学校の頃から、調べたり、話し合ったり、発表したりといった学習活動を経験していることから、時間が制約されているにも関わらず、欲張って多くの活動を盛り込んでしまったことを反省している。普段は受験指導に追われ、こうした活動的な場面の時間をなかなか確保できないが、年間を通じて計画的に実施することにより、生徒の主権者としての自覚を高めさせることができると考える。

ワークシート「公正」な選挙の条件について考えてみよう

1　日本の選挙資格の推移に関する表を完成しよう。（衆議院）

総選挙の改正年	選挙人資格		被選挙人資格	有権者比率（対人口）
	性別・年齢	納税・居住資格		
1889年	満（２５）歳以上の（ 男子 ）	直接国税（１５）円以上、本籍のある選挙区に１年以上居住	直接国税（１５）円以上を収める30歳以上の（男子）	（ 1.1 ）％
1919年		直接国税（３）円以上、６ヶ月以上居住	納税資格要件撤廃30歳以上の（男子）	（ 5.5 ）％
1925年		（納税資格）要件撤廃、１年以上居住		（ 20 ）％
1945年	満（２０）歳以上の（ 男女 ）	６ヶ月以上居住	満（２５）歳以上の（ 男女 ）＊参議院は（３０）歳以上	（ 49 ）％
2000年		３ヶ月以上居住		（ 79 ）％
2016年（予定）	満（１８）歳以上の（ 男女 ）			

2 日本の選挙制度について記入しよう。

	衆議院	参議院
選挙区	小選挙区（２９５名）	各都道府県の選挙区から選出（改選数　７３名）
比例代表	全国を１１ブロックに分けて選出拘束名簿式（１８０名）	全国を選挙区とする非拘束名簿式（改選数　４８名）

3　「公正」な選挙の条件について考えてみよう。

自分が考える「公正」な選挙の条件として、
①必要なこと、②できれば望ましいこと、③必ずしも必要ないこと、④望ましくないこと、に分類してみよう。空欄に、自分の考える「公正」な選挙のための条件を記入しよう。

（A）選挙権に納税額の制限がないこと		（B）すべての人の一票が等しい価値をもつこと		（C）首相を直接選ぶことができること		（D）議員や首相（首長）に任期があること	
（E）議員や首相（首長）をやめさせることができること		（F）すべての国民に投票の義務（罰則あり）があること		（G）候補者や政党がキャンペーンに使えるお金に制限があること		（H）政治家や政党への献金が禁止されていること	
（I）候補者が政党に所属していること		（J）候補者がマスコミを通じて政策を述べられること		（K）人種・信条・職業による制限がないこと		自分の考える条件	

4 グループで話し合ってみよう。意見がほとんど一致した項目と、大きく異なった項目をそれぞれあげてみよう。

ほとんど一致した項目	(A)(B)(K)
意見が異なった項目	(C)(D)(E)(F)(G)(H)(I)(J)

【解答例1】

5 現在の日本の選挙制度で問題となっていることを一つ選ぼう。

日本の選挙制度の問題：投票率の低さ

6 現在の日本の選挙制度の問題点について調べてみよう。

問題点：若い世代の投票率が低い理由
調べた内容：①「政治に関心が分かない」、②「自分一人が投票に行っても行かなくても何も変わらない」、③「政治家を信用できない」、④「別の予定が入っている」 ・投票率が1％下がると、若者は一人当たり年間135,000円も損をしている。

7 調べた問題点について話し合い、解決策をつくりましょう。

話し合った内容：投票率の低さの改善
解決策：若者の投票率を上げる ①インターネット投票を導入する、②政治教育を積極的にする、③景品がもらえる

8 「公正」な選挙制度についての考えたこと（考えが変わったこと）について記入しよう。

前回学んだ「すべての国民に投票の義務がある（罰則を伴う）」というところで、②（どちらかといえば望ましい）にしていたけれど、投票率を上げるための対策をみんなで考えているうちに、③（必ずしも必要でないこと）かな、と思えてきました。強制ではなくても、いろいろな方法でたくさんの人の意識を変えられそうなので、これからますます投票率が上がるといいと思った。

【解答例2】

5 現在の日本の選挙制度で問題となっていることを一つ選ぼう。

日本の選挙制度の問題：一票の格差

6 現在の日本の選挙制度の問題点について調べてみよう。

問題点：一票の格差
調べた内容：昨年12月の衆議院選で最大2.43倍の格差が生じた。この格差を憲法違反として弁護士らが裁判を起こし、東京一区の選挙無効を求めた。

7 調べた問題点について話し合い、解決策をつくりましょう。

話し合った内容：一票の格差
解決策：①各選挙区の有権者数を合わせるために、区を統合したり分けたりする。 ②有権者数の多い選挙区は立候補者を増やす。③比例代表のみにする

8 「公正」な選挙制度についての考えたこと（考えが変わったこと）について記入しよう。

普通選挙になって誰でも投票に行けるようになったし、よい状態だと思っていたけど、まだまだたくさんの課題があると知った。その解決策を考えようとしたが、なかなかよい意見が思い浮かばなかったので、課題を解決する難しさを感じた。解決に向けて自分にできることはやっていきたい。18歳になったら選挙にも積極的に参加しようと思う。

【解答例３】

5 現在の日本の選挙制度で問題となっていることを一つ選ぼう。

日本の選挙制度の問題：外国人の参政権

6 現在の日本の選挙制度の問題点について調べてみよう。

問題点： 外国人の参政権
調べた内容：国民主権の原理に基づき、わが国の国籍を有する者に権利が保障される。世論調査では、反対が95％（国籍取得が条件）（2009年）である。 〔反対派〕・外国が、自国出身の永住外国人を通して、日本政府と異なる主張を地方から浸透させ、影響力を行使する余地が生まれる。 〔賛成派〕・日本に納税している。　・外国人が住みやすい環境づくりになる。

7 調べた問題点について話し合い、解決策をつくりましょう。

話し合った内容：外国人の参政権
解決策： 選挙権は認めるけど、被選挙権は認めない。

8 「公正」な選挙制度について考えたこと（考えが変わったこと）を記入しよう。

私は今まで、外国人の参政権について考えたことはありませんでした。確かに、税金を納めたり、働いたりしているのに、変だなと思いました。調べてみると、たくさんの問題があり、すごく不安もあると思ったけど、外国住民が増えている日本では、国をまとめるために必要なのではないかと思いました。しかし、そうすることで起こる様々な問題があると思うので、慎重に取り組んでいかなければならないと思いました。

授業実践例③

能動的な学びを活用した主権者教育

―「ローカルマニフェスト」の作成を通して政治参画意識を育む―

1　指導のねらい

若者の政治離れが叫ばれている中、公職選挙法が改正され、選挙権年齢が 18 歳へ引き下げられた。これに伴い、高校において生徒の政治参画意識を育むことが、今まで以上に求められている。

本実践例は、「現代社会」の「現代の民主政治と政治参加の意義」において、ワークシートへの論述やグループ討論、PowerPoint を利用した発表等、生徒の能動的な学びであるアクティブラーニングの視点を取り入れながら「ローカルマニフェスト」を作成させ、生徒一人一人の政治参画意識を育むことをねらいとしたものである。

2　教材（資料）

・教科書『高校現代社会』(実教出版)
・ワークシートⅠ・Ⅱ
・PowerPoint 2013 (Microsoft 社)

3　指導計画（3時間）

(1) 第1時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展開	「ローカルマニフェスト」の意味	・「ローカルマニフェスト」の意味ついて理解する。		
	「ローカルマニフェスト」の作成（個人）	・仮想都市の条件に基づき、各自で「ローカルマニフェスト」を作成する。	・事前に調べた資料についてワークシートⅠに記述させる。	

※「ローカルマニフェスト」とは、政治理念、具体的な数値目標、達成期限、財源などが書き込まれ、検証可能な公約（マニフェスト）の地方選挙版のことを指す。
(朝日新聞社『知恵蔵 2015』より)

(2) 第2時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展開	「ローカルマニフェスト」の作成（グループ）	・各グループに分かれ、各自で作成したものを比較検討し、グループとしての「ローカルマニフェスト」を作成する。	・マニフェストの内容が非現実的で実行不可能なものとならないよう留意させる。	
		・作成した「ローカルマニフェスト」を PowerPoint の発表用スライドに入力して完成させる。		

(3) 第３時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展開	「ローカルマニフェスト」の発表	・各グループがPowerPointを使って「ローカルマニフェスト」を発表する。	・他のグループ（３グループ）の発表を評価させる。	
	発表の振り返り	・発表の振り返りを行い、政治参画意識の変化をワークシートⅡに記述する。		◎

本時の評価規準（◎について）

【評価の観点】「関心・意欲・態度」　　【評価方法】ワークシートⅡ

【評価規準】　能動的な学びを通して、政治参画意識が高まっている。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・能動的な学びを通して、政治参画意識が高まったことをワークシートⅡに記述している。
A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・能動的な学びを通して、政治参画意識が高まったことや、有権者となる上での心構えについてワークシートⅡに記述している。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・学びが消極的で、政治参画意識が高まったことについてワークシートⅡに記述していない。 →近い将来に有権者となることを自覚させながら、政治参画意識を高めさせる。

4　指導上の工夫

(1) 授業の流れ

ア　市長選挙のための「ローカルマニフェスト」を作成する。

①個人で作成　→　②グループ[10名×４グループ]で作成

イ　PowerPointを使って発表する。

ウ　全員が他のグループの発表を評価し、発表の振り返りをワークシートⅡに記述する。

(2) 「ローカルマニフェスト」作成の条件

仮想都市

①人口20万人の中規模都市で、人口の20%が高齢者である。

②ＪＲや私鉄の駅はあるものの、郊外の交通網は整備されていない。

③海に面し、沖合は格好の漁場である。沿岸部にはゴミ処理場の建設計画がもち上がっている。

④年中、南風が強い。　⑤レジャー施設が存在しない。

⑥市内西部には総合病院が一つ存在しているものの、市内全ての医療患者に対応しきれず、東隣りの都市の総合病院を訪れる人も多い。

⑦食料自給率は40%である。　⑧市内には２カ所に大型スーパーが存在する。

⑨主要な農産物はブランド米で、地元では人気が高い。

⑩沿岸部には海産物市場が存在する。　⑪公共施設の老朽化が激しい。

⑫市内には高校が３校しかない。（普通科高校２校、工業科高校１校）

⑬街の中心部の住民は大半が核家族であるが、郊外では大家族の家庭の割合が多い。
⑭マラソンブームで、早朝や夕方以降のマラソン人口が多い。
⑮同規模の他市と比較して、交通事故が多い。
⑯市内では、不審者被害をはじめ犯罪が増加している。
⑰地域に愛着をもつ若者が多い。　⑱野球場２つ分の空き地が郊外に存在する。

5　評価

この実践では、課題探究のテーマを、仮想都市の市長選挙にかかる「ローカルマニフェスト」の作成とした。生徒にとっても身近で、比較的取り組みやすいテーマであったため、普段の授業に比べて学習への関心・意欲は全体的に高かった。時間の制約上、３時間の計画に対して、２時間（残りの１時間は自宅学習）のみの実践となったが、普段は決して見ることのない生き生きとした生徒の様子を目にすることができた。

また、各グループのプレゼンテーションでは、PowerPoint の機能をうまく活用し、「ローカルマニフェスト」を分かりやすく伝えることができた。なお、プレゼンテーションの審査結果は、Ａグループが 14 票、Ｂグループが５票、Ｃグループが８票、Ｄグループが 13 票であり、高齢者と医療に重点をおいた、Ａ、Ｂグループの「ローカルマニフェスト」が多くの支持を集める結果となった。

6　今後の課題

近い将来、有権者となる高校３年生の生徒に対して、選挙への興味・関心や政治参画意識をいかに高めさせるかは、公民科をはじめとする高校の教員の緊急の課題である。PowerPoint 等のＩＣＴを積極的に活用し、論述・討論・発表などの能動的な活動を取り入れた学習を通して、生徒の政治参画意識をより一層育んでいきたい。

7　資料

（斜め太字が生徒の記述例である。）

ワークシートⅠ

あなたは仮想都市の市長選挙に立候補します。①～⑱の条件を参考にして「ローカルマニフェスト」を作成してみよう。

［１］*農業都市宣言*

→　*ブランド米を全国へ出荷*

→　*「地産地消レストラン」をつくる。*
（駅とレストランを結ぶ循環バスを用意）

→　*市内の小・中学校で農業体験の時間をつくり、農業の喜びを実感させて、農業を支える若者を育てる。*

→　*市内の農産物は消費税を免除する。*
（市が消費税を負担）

→　*広大な空き地で牛を飼育し、飛騨牛のようなブランド牛を育てる。*

＿＿＿年＿＿＿組＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ワークシートⅡ

注１） 自分のグループ以外の３グループを評価すること。
注２） 各グループのプレゼンテーションに対して、疑問点を記述する。
注３） 評価の欄には○印を記入すること。

	（ *A* ）グループ	（ *B* ）グループ	（ *D* ）グループ
疑問や感想等を記入	*選挙の時の在宅での投票は、今の公職選挙法で認められているのか。*	*風力発電施設を建設するためには、莫大な費用がかかってしまうのではないのか。*	*夜間診療所をたくさんつくってほしい。*
評価	良　い 普　通 要改善	良　い 普　通 要改善	良　い 普　通 要改善

あなたが選ぶ最良の「ローカルマニフェスト」は？

（ *D* ）グループ

授業を振り返って

本授業（「ローカルマニフェスト」の作成）を通して、あなたの政治や選挙に対する意識はどのように変化したのかを、記述してみよう。

今までは、国や県や市の政治は政治家がしているから、自分にはあまり関係ないと思っていたが、実際に立候補者の立場で「ローカルマニフェスト」づくりをした結果、満18歳の誕生日を迎えたら、必ず投票に行って自分の考えを選挙で表していきたい。日本は間接民主制をとっているから、僕たち国民の意見を少しでも国や地方の政治に反映させたいと思う。

（ *C* ）グループ　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Aグループ

☆ 高齢者に優しい都市宣言

1 高齢者向け移動サービス
→ 食品・日用雑貨販売、銀行窓口業務を可能にする特別車が、高齢者のご自宅を訪れる。

2 選挙時の在宅投票を認める方向で

Bグループ

① 安全を重視した都市づくり

➡ 具体的な政策

・ 犯罪の多発する地区に街路灯を増やす。

・ 信号機や交通標識を整備し、交通事故を防止する。

・ 無事故無違反ドライバーへの報奨金

Aグループ

☆ 誰でも住みたくなる都市宣言

1 地域密着型のマラソン大会を開催
→ 街の顔（ゆるキャラ）公募
→ 景品：地元の海産物、ブランド米

2 空き地に農業テーマパークを建設
→ 農業体験、直売所、地産地消レストラン

Bグループ

② 環境にやさしい電力を

➡ 具体的な政策

・ 各家庭の太陽光発電に補助金を出す。

・ 海辺の空き地に風力発電施設を建設する。

・ 各企業や事業所に節電をお願いする。

Cグループ

ごみ処理場建設に賛成

メリット

a、街のごみを1か所で管理できる

b、ゴミ処理発電が可能に

c、新しい雇用が生まれる → 失業者吸収

Dグループ

医療に困らない都市宣言

（1）夜間医療診療所の設置（市街地と郊外）
→ 市内の医師会に協力を依頼し、勤務医を確保

（2）ホスピス施設の建設

（3）救命救急用ヘリコプター1機の購入
← 道路工事費を削減して

Cグループ

農林高校建設を構想

メリット

a、職業科を希望する中学生のニーズに応える

b、農業のプロを育成

→ 農業で街おこしを

Dグループ

子育てをしながら、働きませんか！

(1) 24時間対応の保育施設

(2) 市役所の一部窓口を23時まで延長

新たな労働力（主婦）を街のために

授業実践例④

課題解決学習を活用したシティズンシップ教育
ー地域社会を担う市民意識を涵養させる授業の工夫ー

1　指導のねらい

近年、若者の就業意識の低下に加えて、社会的無力感や投票率の低下をはじめとする政治的無関心がより深刻となり、将来を担う若い世代に社会的責任、法の遵守、地域・社会との関わりを教えるシティズンシップ教育の必要性が提唱されている。

シティズンシップ教育は、主権者としての市民が備えるべき市民性を育成し、集団への所属意識、権利の享受や責任・義務の履行、公的な事柄への関心や関与などを開発し、社会参画に必要な知識、技能、価値観を習得させることをねらいとしている。

本研究では、人口の減少に伴う過疎化が深刻である地元の新城市を題材とした課題解決型学習に取り組んだ。また、新城東高校においても、新城・北設地域の進学拠点校という立場は変わらないものの、クラス数の減少、部活動の停滞等が顕著で、地域社会の課題が色濃く反映されている。

そこで、地元新城市の未来に関わる切実な課題について取り上げ、その解決策を「新城市を元気にするビジネスプラン」としてまとめさせた。主権者の一人として地域社会を担っていこうとする市民意識を涵養させるとともに、グループ学習やプレゼンテーションなどを生かした課題解決型学習を通して、思考力や判断力、ディスカッション能力や表現力を育成することができるのではないかと考えた。

2　教材

(1) 教科書「現代社会」（東京書籍）
(2) 資料集「最新図説　現社」（浜島書店）
(3) ワークシート１～３

3　指導計画（２時間）

(1) 第１時限

〔本時までに準備しておくこと〕
・ビジネスプランの作成に関する説明（ねらい、ルール、評価など）
・チーム分け（１チーム６～７人）

	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	授業内容の確認	・ビジネスプランの作成について説明する。（ワークシート１）	・プランの作成から発表、評価までの流れについて説明する。	
展開 (35分)	ビジネスプランの作成	・思い付いたアイデアを付せん紙にメモし、それらを整理しながらビジネスプランを作成する。 ・７Ｗ２Ｈの観点から要点をまとめる。	・各チームを巡回し、適宜アドバイスする。 ・実現可能で有効なプランとするよう留意させる。	◎①
	プレゼンテーションの準備	・ビジネスプランを模造紙にまとめる。	・聞き手（投資家）にわかりやすいまとめとなるよう工夫させる。	

まとめ （10分）	ワークシートへの記入	・ビジネスプランの要旨をまとめる。（ワークシート２）	・発表する際の留意点を確認させる。	

本時の評価規準　（◎１について）

【評価の観点】「思考・判断・表現」

【評価方法】ビジネスプラン（ワークシート２）

【評価の規準】新城市の現況を地域の課題として捉え、地域住民の立場から新城市を活性化させるため実現可能なビジネスプランを策定している。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・新城市の現況を地域の課題として捉え、地域住民の立場から新城市を活性化させるための実現可能なビジネスプランを策定している。
A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・新城市の現況を地域の課題として捉え、地域住民の立場から新城市を活性化させるための実現可能かつ独創的なビジネスプランを策定し、わかりやすく表現している。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・新城市の現況を地域の課題として捉えているが、新城市を活性化させるための実現可能なビジネスプランが策定されていない。 →アドバイスしながら、実現可能なビジネスプランを策定し直すよう促す。

(2) 第２時限

	学習活動	学習内容	指導上の留意点	評価
導入	諸注意	・発表、評価の諸注意		
展開 (40分)	プレゼンテーション	・チームごとに発表 （１チーム：発表４分30秒、評価３分）	・聞く側の態度について注意を促す。	
	評価	・各チームのビジネスプランについて、項目ごとに評価する。（ワークシート３） ・各チームのビジネスプランについて、投資額を決定する	・他のチームを公正に評価するよう注意を促す。 ・改善点についてもアドバイスできるように考えさせる。	◎２
まとめ (10分)	・まとめ	・これまでの学習を振り返りながら、社会参画の意義について理解する。	・主権者としての自覚と社会参画の意識を高めるよう促す。	

本時の評価規準（◎２について）

【評価の観点】「関心・意欲・態度」　　【評価方法】評価票（ワークシート３）

【評価の規準】他のグループのビジネスプランを公正に評価するとともに、そのよかった点、改善すべき点についても端的にまとめている。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・他のグループのビジネスプランを公正に評価するとともに、そのよかった点、改善すべき点についても端的にまとめている。

A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・他のグループのビジネスプランを公正に評価するとともに、そのよかった点、改善点についても端的にまとめられており、さらに改善点については、的確かつ具体的にアドバイスしている。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・他のグループのビジネスプランを公正に評価していない。 →公正な態度で評価するよう個別指導を行い、改めて評価票をまとめさせる。

4　指導上の工夫

(1) 新城市の未来に関わる切実な地域課題について取り上げ、「新城市を元気にするビジネスプラン」を考案させることにより、主権者として地域社会を担う市民意識を高めさせた。

(2) ビジネスプランをＮＰＯ法人という立場で考案させた。これは営利を目的とせず、公益に資するサービスを提供するという立場を担うことで、公共的な事柄に参画するための資質を身に付けさせようとした。

(3) 計２時間の指導計画で実施できるよう、ねらい、ルール、評価などの説明やグループ分けを事前（少し余った授業時間、業後など）に行った。

(4) 実現可能で具体的なプランを考案させるため、７Ｗ２Ｈの観点から考えさせ、それに適応したワークシートを作成した。

(5) 評価においては、通常の評価方法（５つの評価項目）とは別に、新城市の職員という立場から総合評価するという方法を取り入れた。また、数字（金額）だけでなく「よかった点」や「改善点」を具体的にアドバイスさせた。

5　評価

(1) 第１時限

本時の評価は、各班から提出されたビジネスプラン（ワークシート２）の内容を評価の対象とした。その内容について、「思考・判断・表現」を評価の観点とし、新城市の現況を地域の課題として捉え、地域住民の立場から新城市を活性化させるための実現可能なビジネスプランを策定できていれば「Ｂ」、さらに「Ｂ」に加えて、独創的なビジネスプランをわかりやすく表現しているものを「Ａ」とした。全６班のうち２班が「Ａ」、４班が「Ｂ」であった。「Ａ」であった２班はいずれも、話題性のある実践的かつ独創的なビジネスプランを策定し、「新城を元気にしたい」という市民意識の高まりがみられた。

(2) 第２時限

本時の評価は、各班から提出された評価票（ワークシート３）の内容を評価の対象とした。その内容について、「関心・意欲・態度」を評価の観点とし、他のグループのビジネスプランを公正に評価するとともに、そのよかった点、改善すべき点についても端的にまとめていれば「Ｂ」、これに加えて、改善点について的確かつ具体的ににアドバイスできていれば「Ａ」とした。全６班のうち３班が「Ａ」、３班が「Ｂ」であった。「Ａ」であった３班は、他班のプランを理解した上で公正に評価し、改善点について的確かつ具体的にアドバイスしていた。

6　今後の課題

(1) 主権者教育について

本実践を通して 地域社会を担う主権者としての意識が高まったかは疑問である。ＮＰＯ法人として公益に資するサービスを提供するという生徒の意識は弱く、単なるビジネスプランの策定に終始してしまった感が否めない。

ＮＰＯ法人としてプランを実現するにあたっては、現実的には行政機関との関わりが不可欠である。営利＝市場の原理に基づくのではなく、公益を実現するためには政治的な解決方法もあることを生徒に学ばせる必要がある。そして、この地方行政との関わりや働きかけこそ、地域社会を担う主権者の第一歩となるのである。授業の実践にあたって、そのねらいや目的をはっきりと伝えておく必要性を強く感じた。

(2) 時間的な制約について

授業が２時間という制約の中ではあったが、今回は各班とも協力しながらプランを考案していた。こちらの予想を上回るチームワークであり、生徒の協働的な取組については高く評価したいが、今後もこうした学習を進めるためには、いかに時間を確保するかが課題となる。

(3) ビジネスプランについて

ビジネスプランの内容は、イベント的なものが多かった。一時的に来訪する人が増え、イベントとしては成功をおさめるかもしれないが、将来的な人口増加にはつながりにくい。過疎化という地域の切実な課題から考えると、より実現可能なプランではない。

こうした中、第４班のビジネスプラン「お見合い婚活パーティ」は、一見すると高校生らしい軽いノリの企画に思えるが、将来的な新城市への転居者や子どもの出生数による人口の増加につながるプランである。また、プランそのものが若者を惹き付ける魅力や話題性があり、実現可能なビジネスプランとしても高く評価できる。こうしたプランを作成させるためには、導入での課題学習の説明において、将来的な視野をもったプランを作成するようアドバイスしておく必要がある。

(4) プレゼンテーションについて

全体的に生徒のプレゼンテーション能力の未熟さを実感した。模造紙のまとめ方やや発表の方法などにおいて、相手に何をアピールしたいか、自分たちのプランのセールスポイントなど、他と差別化を図ろうとする姿勢が十分ではなかった。こうした背景には、プレゼンテーションの経験の少なさがあると指摘できる。さらにいえば、自分の考えをまとめ、相手に伝えるという言語活動そのものも十分ではないのではないか。こうしたことから、公民科だけではなく、他教科の授業や「総合的な学習の時間」、ホームルーム活動なども含めて、学校全体で言語活動をより一層充実させる必要があると考える。

「新城市を元気にする」ビジネスプランを考えよう（ワークシート１）

(1) プランの作成から発表・評価までの流れ

①６チームに分かれる。（１チーム６人～８人）

役割分担：Ｂ紙にまとめる（２～３人）、ワークシートにまとめる（１～２人）、プレゼンテーション（２～３人）

②ＮＰＯ法人という立場で「新城市を元気にする」ビジネスプランを考える。

ア）新城市の状況・・・人口減少、少子高齢化、豊かな自然、産業停滞、
新東名開通（インターチェンジ、道の駅建設）
豊かな歴史資産（設楽原の戦い、長篠の戦い）
歴史ある温泉（湯谷温泉）
スポーツイベント：新城ラリー、ツール・ド・新城
地場産業：しいたけ、鳳来牛、木材加工
伝統芸能：花祭り、長篠陣太鼓

イ）実現可能なプランを策定する
例）自然や歴史資産に特化したプラン
例）地場産業や温泉に特化したプラン
例）イベントや産業を呼び込むプラン

ウ）７Ｗ２Ｈの観点で考える
WHAT（内容）、WHERE（場所・場面）、WHEN（時間・期限）
WHO（主催者・担当者）、WHY（目的・理由）、WHICH（特徴・差別化）
WHOM（対象）、HOW　TO（方法・手段）、HOW MUCH（予算・費用）

エ）事業予算：1000万円

③ビジネスプランをＢ紙（発表用）およびワークシート（提出用）にまとめる

④プレゼンテーション

ア）１チームあたり：発表４分30秒→他チームによる評価３分　計７分30秒

イ）発表者の工夫：〈わかりやすく〉〈ポイントを押さえて〉〈時間厳守〉

ウ）聞き手のマナー：〈真摯な態度で〉〈改善点もアドバイスしよう〉

⑤評価

ア）新城市職員の立場で１チーム400万円の予算を持ち、プランの評価に応じて予算を割り振る。

イ）各チームのビジネスプランについて、他の５チームおよび教師が評価する

・次の５項目について評価（各項目１～３点　計15点）
〈アイデア・発想〉〈プランのまとまり〉〈実現可能性〉
〈プレゼンテーション①　Ｂ紙まとめ〉〈プレゼンテーション②　発表〉

・文章でアドバイス（点数化しない）
〈特によかったところ〉〈改善点〉

・総合評価：各チームのビジネスプランを予算化する（総額400万円）
予算獲得額に応じて点数化
１位：１０点　２位：８点　３位：６点　４位：４点
５位：３点　　６位：２点

ウ）計１００点満点（項目評価：９０点　総合評価：１０点）
→各チームの得点の１／５を２学期評価の平常点に入れる

新城市を元気にするビジネスプラン　ワークシート2

1　第 2 班 チーム名 に。

メンバー

	番号	氏　名	担当		番号	氏　名	担当
1				5			
2				6			
3				7			
4				8			

2　ビジネスプランを考えよう

（1）ビジネスプラン名　The PR Project

（2）内容

WHAT（内容）
様々な分野における宣伝効果を高めるために、NPO法人が農家や商店、イベント、観光地等を対象に若者と共に、無料でポスターを制作するサービスを実施する。また、ポスターコンクールも開催より市民に関心をもってもらう。

WHERE（場所・場面）
依頼者の指示した場所（畑や、店、事業所など）で取材を行う。

WHEN（時間・期限）
4月：依頼者（農家、商店、イベント、観光地等）募集
9,1月：制作者（小、中、高、大学生）募集
夏休み、冬休み、春休み：取材、ポスター制作等

WHO（主催者・担当者）
NPO法人

WHY（目的・理由）
若者と高齢者などを中心に、市民間のふれあいの機会を増加させる
イベント等の企画や、商品等を効率的に宣伝することで、市内の動きをより活発化させる

WHICH（特徴・差別化）
ポスターで市外へ魅力をPRすることはもちろん、ポスター作りを進めていく過程で、地元市民にも魅力を再確認させ、市民力を向上させていくことができる。

WHOM（対象）
ポスター制作：若者（小、中、高、大学生）
依頼：高齢者を中心とする市民
（農家、商店、イベント、観光地に関わる人）
その他の市民（ポスター展に来る人たち…）

HOW TO（方法・手段）
NPO法人が若者や農家、商店等にこのサービスの宣伝を行う。募集後、制作側と依頼側をひきあわせ、方向性などを決定してもらう。ポスター完成したら、無料で印刷し、依頼者へ提供する。若者には500円分の特典を付けておく。
1年間で制作されたポスターを文化会館で展示する。

HOW MUCH（予算・費用）

項　目	費用（万円）	項　目	費用（万円）
宣伝費（A4×26700枚×2）	30万円	文化会館使用料（1日）	9万8000円
ポスター 紙+印刷代	2万500×200=500万円	カメラ（貸し出し用）5万×20コ	100万円
特典	500×3人×200=30万円	ポスター制作用材料	50万円
交通費、お弁当代	3000×3人×200=180万円	その他	100万円

新城市を元気にするビジネスプラン　ワークシート3

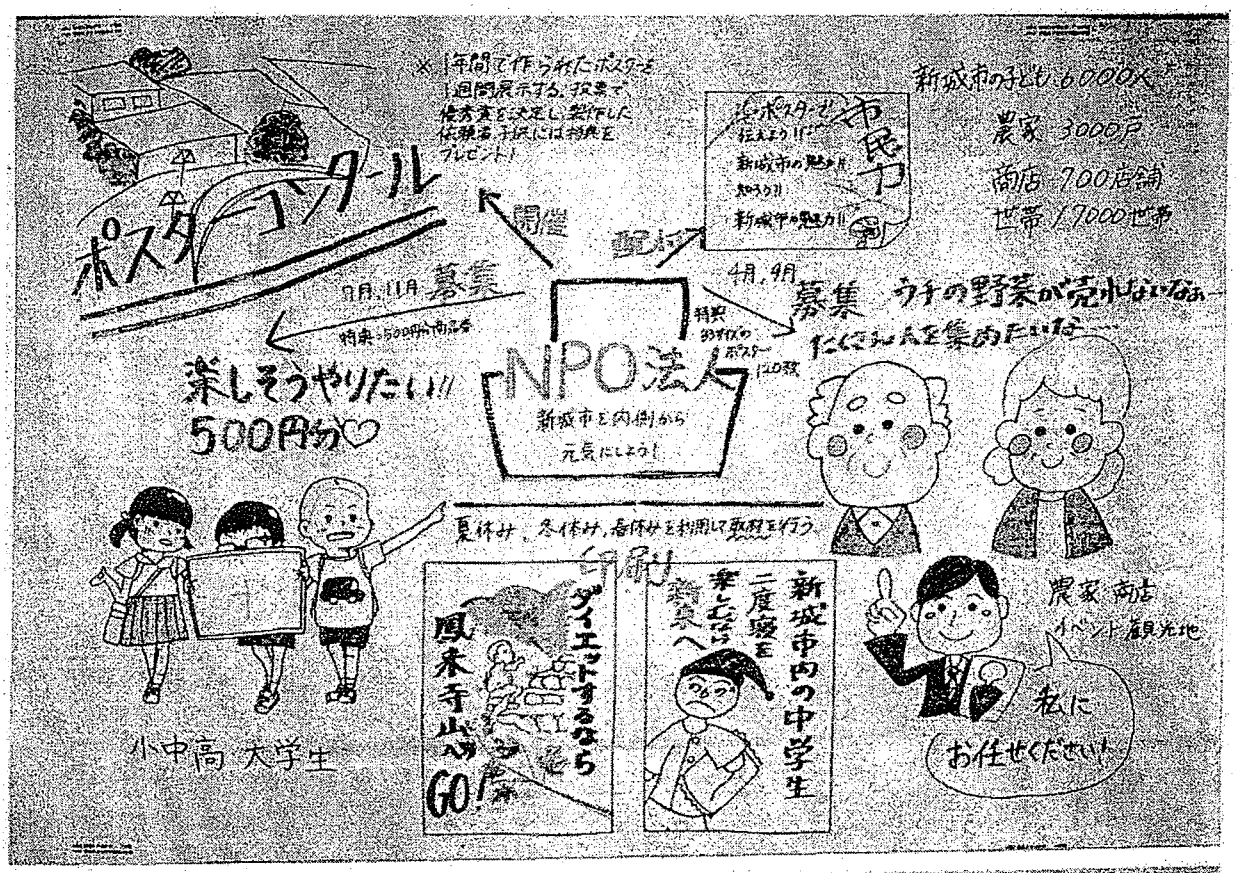
第 5 班　→　第 4 班 評価票

評価項目および総合評価

1 アイデア・発想	③よかった　2 ふつう　1 要改善
2 プランのまとまり	③よかった　2 ふつう　1 要改善
3 実現可能性	③よかった　2 ふつう　1 要改善
4 プレゼンテーション① B紙	③よかった　2 ふつう　1 要改善
5 プレゼンテーション② 発表	3 よかった　②ふつう　1 要改善
予算額（総合評価）　200 万円／400万円	得点計 14 ／15

特によかったところ
・若者が集まりそう
・山の高齢化、農場化 対策

改善点
・参加者の集め方



ヨコノミクス ～一本の矢～

♡お見合いしちゃいん♡

～プログラム～

1日目
- 9:00 新城駅に集合
- 9:30～10:30 もっくるで買い物
- 11:30～12:00 ほうらい牛 eatting!
- 13:00～14:00 自己紹介タイム
- 14:20～16:00 しりエーション
- 17:00～ 湯谷温泉でごはん
- 温泉宿に入りねる。

2日目
- 9:00 集合
- 10:00～15:00 ほうらい山
- 16:00～21:00 バーベキュー & 愛の長崎陣太鼓
- 温泉宿に入りねる。

3日目
- 9:00～10:00 おはなしタイム
- 10:30～12:00 しいたけがり
- 12:00～13:30 お昼ごはん
- 14:00～ 告白タイム!!!!!!!!

後はご自由に♡

～予算～
- 湯谷温泉借しきり500万
- バス X4台 150万
- しいたけ収穫 50万
- バーベキュー 100万
- ほうらい山 100万
- 予備費 100万

～その他～
- 参加費は 1人5000円
- 誕生カップルには、2泊3日湯谷温泉宿泊券プレゼント
- 対象は 男20～45歳 (新城住民50%、他50%)
- 期間 9/2(土)～9/22(月)

「新城市を元気にするビジネスプラン」評価一覧表

評価者	1班						2班						3班						4班						5班						6班						教師						よかったところ	改善点	得点計	予算総獲得額	予算獲得額による得点	総合評価
	アイデア・発想	プランのまとまり	実現可能性	プレゼン①B紙	プレゼン②発表	予算額	アイデア・発想	プランのまとまり	実現可能性	プレゼン①B紙	プレゼン②発表	予算額	アイデア・発想	プランのまとまり	実現可能性	プレゼン①B紙	プレゼン②発表	予算額	アイデア・発想	プランのまとまり	実現可能性	プレゼン①B紙	プレゼン②発表	予算額	アイデア・発想	プランのまとまり	実現可能性	プレゼン①B紙	プレゼン②発表	予算額	アイデア・発想	プランのまとまり	実現可能性	プレゼン①B紙	プレゼン②発表	予算額	アイデア・発想	プランのまとまり	実現可能性	プレゼン①B紙	プレゼン②発表	予算額						
1班							3	1	2	3	2	50	3	2	1	2	2	0	3	1	2	1	1	0	3	2	1	2	3	2	3	1	3	1	1	5	2	2	3	1	2	30	元気がよくて聞き取りやすかった。質疑応答をしっかりしている。定期イベントとして行えそう。アイデアが面白かった。五平餅塗が伝わった。五平餅に目をつけたところ。	商品について、実物ではなく、チケットなどにすればよいのでは？3年分→1年分の方が長続きしそう。宣伝費を増やした方がよいと思う。新城市が活性化するのかな…。五平餅3年分は多い。余ったときの処理に困るのでは？参加費が無料だと何年も続けられないのでは？五平餅で新城市が本当に活性化するのか疑問、もっと説明がほしかった。	59	87	2	61
2班	2	3	1	3	2	2							3	3	3	3	3	0	2	2	2	3	2	0	3	3	2	1	3	48	3	3	3	3	3	290	3	2	3	3	2	80	絵を使っていてよかった。図がわかりやすかった。具体的に計画化してあった。まとまっていた。内容が明確だった。細かいところまで計画できていた。B紙のまとめがよかった。	字が細かい。ないですね。B紙の字が小さい、ちょっとわかりにくい。何を特にPRするのかわからなかった。	77	420	8	85
3班	2	2	2	2	2	4	3	3	2	3	3	200							2	2	3	2	3	0	2	2	3	2	3	50	2	1	1	2	3	50	2	2	3	1	3	50	歴史好きなのでアイデアがよかった。発表が聞きやすくて内容がよく理解できた。プレゼンが面白かった、わかりやすかった。新城市の歴史について広められる。没才風な感じがよかった。	歴史に興味がない人はどうなのか。引きつけるものが足りないと思った。予算などもう少し細かくも決めても良いかも。もう少し具体的に！予算が高い。設楽原歴史資料館の規模が厳しい。	68	354	6	74
4班	1	3	1	2	1	0.5	2	3	2	3	2	50	2	2	2	1	1	200							3	3	3	3	2	200	3	2	3	3	1	5	3	3	3	2	1	150	イベントの企画が新鮮でよかった。見合いツアーの発想がよい。若者が集まりそう。少子高齢化、晩婚化対策。実現可能性が高く、B紙がうまくまとめられていた。	もっと気軽に参加できるようになると良い。参加費をもう少し高くした方がいい。ツアーの頻番を変えた方がいい。参加者の集め方。B紙に書いてあることだけを読むのではなく、もう少し発表を工夫した方がいい。	66	605.5	10	76
5班	2	1	2	2	1	3	3	2	3	3	2	50	2	3	3	2	1	200	2	2	2	3	3	0							2	2	2	2	2	50	2	2	2	2	1	50	四季でいろいろな行事ができるのがよい。B紙がきれいに見やすくまとまっていた。企画内容がわかりやすい。具体例を出すのはよかった。B紙に写真があって見やすい。四季で企画したのがよかった。	規模を広げた方が良い→人が来やすいところ。ぼっちには厳しい。もっとはっきりとした声で発表できれば良かった。もう少し1つの季節を深くやった方がよかった。	63	353	4	67
6班	2	2	1	2	2	7	3	1	2	2	1	50	1	1	1	2	1	0	2	2	1	1	2	0	3	1	2	3	2	100							3	2	3	1	2	40	まめ三郎などがかわいかった。斬新。ゆるキャラは可愛らしかった。ユーモアがある。枝豆のキャラがかわいい。	予算に無理がある。農家の人の報酬が少なすぎ。輸出する前にブランドを確立しないと売れない。多分できない。まとまりがない。土地をどうするか。	54	197	3	57

〔 倫理 班 〕

内　容

1　授業実践例紹介

2　授業実践例

①　テーマ「カントの『理性の在り方』を踏まえた主権者教育」
－理性に基づき社会を「思考・判断・表現」する言語活動の実践－

②　テーマ「諸子百家の思想を手がかりとした主権者教育」
－孔子・孟子・墨子の思想からクラスの「級訓」を考えさせる－

③　テーマ「先哲の思想を踏まえた意思決定の授業実践」
－グループワークを通して「所得の再分配」について考える－

④　テーマ「他者と『共に生きる』有権者を育てるシティズンシップ教育」
－投票しない行為を弁証法的に統一して模擬選挙に臨む－

研 究 員	愛知県立名古屋西高等学校	後藤　賢二
	愛知県立南陽高等学校	加古　琢磨
	愛知県立知立東高等学校	増井　強志
	愛知県立豊橋南高等学校	石田　桂子
運営委員	愛知県立旭丘高等学校	杉浦　義之

「倫理」班

1　授業実践例紹介

平成23年度に取りまとめられた総務省の「常時啓発事業のあり方等研究会」最終報告書では、現代に求められる新しい主権者像として、「国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者」が掲げられた。内に閉じた個ではなく、外に開かれた個としての自立が、主権者の要件として提示されたものと理解する。外に開かれた個、すなわち他者や社会を常に視野に入れ、社会参加等の積極性を身に付けた主権者の育成を念頭に置いて、「倫理」班は授業計画を立案し授業を実践した。具体的には、期待される個としての資質を身に付けるよう課題解決に取り組ませ、その指針を先哲の思想に求めた。また、主体的、協働的な学びを欠かさず取り入れた。概要は以下のとおりである。

授業実践例①　「カントの『理性の在り方』を踏まえた主権者教育」
－理性に基づき社会を「思考・判断・表現」する言語活動の実践－

社会におけるさまざまな事象について、理性的に捉えさせることをねらいとした実践である。生徒には、カントの思想を活用させ、身近な課題や社会的事象への取組及びその動機を文章で表現させた。また、言語活動を構造化し、段階的な指導を試みている点に授業者の工夫がうかがえる。授業を通し、理性的で主体的な意思決定の在り方を身に付けた生徒が、主権者としての自覚をもち、今後自ら社会へ目を向け行動することに期待したい。

授業実践例②　「諸子百家の思想を手がかりとした主権者教育」
－孔子・孟子・墨子の思想からクラスの「級訓」を考えさせる－

生徒にとって最も身近な他者の集まりであるホームルームを舞台とし、望ましい共同体の在り方を探らせる実践である。具体的には、幾つかのグループに分かれ、諸子百家のうちの孔子、孟子、墨子の思想を手かかりとして「級訓」の作成を行った。協働的な学びを通したルールづくりに喜びを感じる生徒の姿も見られたようだ。理想とする共同体の姿を思い描き、現実の社会と真摯に向き合う「良識ある公民」の育成に資する試みである。

授業実践例③　「先哲の思想を踏まえた意思決定の授業実践」
－グループワークを通して「所得の再分配」について考える－

現実の課題として格差問題を取り上げ、生徒に意思決定を迫る実践である。具体的にはロールズとノージックの思想を踏まえて、「所得の再分配」の是非を生徒に問うた。協働的な学びを通した生徒の思考の深まりや変容の様子に、授業者は十分な手ごたえを感じたようだ。この実践により、先哲の思想を借りて課題に関する論点等を明確にし、他者の意見に耳を傾け交流を図ることで自身の判断基準を構築するという、正に主権者教育と呼ぶにふさわしい経験を生徒は積んだといえる。

授業実践例④　「他者と『共に生きる』有権者を育てるシティズンシップ教育」
－投票しない行為を弁証法的に統一して模擬選挙に臨む－

他者を意識して独り善がりにならず、社会的存在である自己を自覚し主権を行使する生徒の育成を目指した実践である。主として和辻哲郎の思想を踏まえて、主権者としての態度の育成を図った。多様な価値観の推察及び気付きを促すために、類推やインタビュー、そしてマンダラート等、主体的で協働的な手法を取り入れた点に授業者の工夫がうかがえる。この実践を通して、主権を行使できることの尊さに気付いた生徒も見られたようだ。

いずれの実践も主権者としての態度の在り方を重視し、言わば主権行使のレディネスづくりを倫理の授業において試みたものである。この研究報告書が、主権者教育に臨む多くの公民科教員のたたき台となることを願って止まない。

2 授業実践例①

カントの「理性の在り方」を踏まえた主権者教育

ー理性に基づき社会を「思考・判断・表現」する言語活動の実践ー

1 指導のねらい

「主権者教育」という言葉をよく耳にするようになった。18歳選挙権が現実のものとなり、現役の高校生が有権者として投票に行く日も近く、生徒に社会の一員としての自覚をより深めさせる必要性が高まっている。主権者として大切なことは、世の中全体を見渡し、在るべき姿を想起し、主権者として自ら主体的に判断して行動することである。

しかし、当事者である生徒が「18歳選挙権」を特に意識することもなく、主権者としての自覚が高まっているとは言い難い。さらに、生徒の日常的な意思決定の根拠は、極めて感覚的・短絡的で、「言われたから…」、「仕方なく…」、「やらないといけないから…」など、主体性に欠けた他人本位な思考・判断による行動の傾向が強い。

こうした現状を踏まえ、本実践では、自らの思考・判断に基づいて社会的現象を理性的に捉える経験を積ませることをねらいとした。題材としては、カントの観念論を用いたが、認識によって現象の有り様が変化するとされる観念論においては、自らの理性や思考の在り方が肝腎である。生徒には、身近な諸課題を理性的に捉えさせ、意思決定の在り方について気付かせ、考えさせた。

2 教材

(1) 教科書『倫理』(数研出版)
(2) 資料集『最新図説　倫理』(浜島書店)
(3) ワークシート

3 授業計画（2時間）

【1時間目】…カントについての基本的な理解

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	・本時の予告	・本時の学習内容の確認		
展開① (15分)	・批判哲学について ・コペルニクス的転回について	・人間の認識能力の源泉と限界について理解する。 ・「対象」が「認識」を構成するのではなく、「認識」が「対象」を構成する点について理解する。	・既に学習している「経験論」、「合理論」の限界点に注目しながら説明をする。 ・「対象」(現象)が人間の「認識」(意識)によって構成される点について、具体例を取り上げながら説明する。	
展開② (25分)	・理性の在り方について	・対象を構成する「認識」の在り方について理解する。 ・「仮言命法」、「定言命法」「傾向性」、「適法性」を中心に理解する。	・具体的な現象を一つ挙げ、その現象についてカントが用いた語句を当てはめながら説明をする。 ・語句どうしの関連性について比較することで、カントの求める理性の在り方について理解する。	

	・カント哲学の社会的影響	・理性の究極目的が平和実現であることを理解する。	・国際連盟設立の背景にカントの思想があることを指摘する。	
まとめ（5分）	・本時のまとめ	・本時の学習内容を振り返る。		

【2時間目】…ワークシートによる実践

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入（5分）	・前時の復習		・特に理性の在り方に関する部分を振り返る。	
展開①（20分）	・ワークシート（Q1・2）	・学習した理性の在り方を用いて各問いに取り組む。 ・一定時間の後、答え合わせをする。	・教科書を用いて語句の意味を確認させるのではなく、生徒自身の感覚やイメージを基に判断するよう指導する。 ・特にQ2における「道徳性」の指摘では、自らの言葉で表現させる。	
展開②（20分）	・ワークシート（Q3・4）	・学習した理性の在り方を用いて各問いに取り組む。 ・一定時間の後、4～5人程度のグループに分けて解答を共有する。その後答え合わせをする。	・他人と相談することで「傾向性」に偏らないよう、まずは一人で考えさせる。 ・Q4についてグループ内で最も印象的なものを発表させる。	◎
まとめ（5分）	・本時のまとめ		・どのような現象も自らの認識・理性の在り方によって捉え方が変わる点について確認する。	

本時の評価規準（◎について）

【評価の観点】「思考・判断・表現」

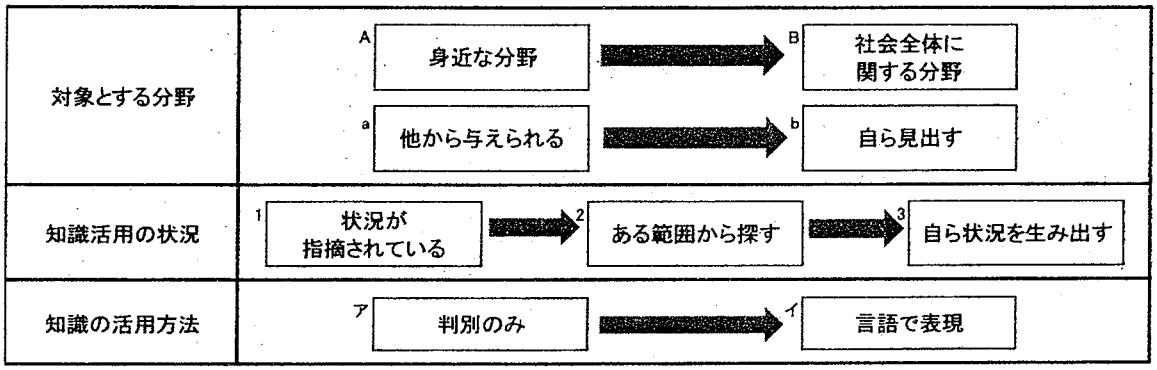
【評価方法】ワークシート

【評価規準】与えられた課題及び自身で設定した具体的な課題について、理性の在り方に関するカントの思想を活用し、それぞれの課題への取組を適切な文章で説明している。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・与えられた課題及び自身で設定した具体的な課題について、理性の在り方に関するカントの思想を活用し、それぞれの課題への取組を適切な文章で説明している。
A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・与えられた課題及び自身で設定した具体的な課題について、理性の在り方に関するカントの思想を活用し、それぞれの課題への取組及びその動機を適切な文章で説明している。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・与えられた課題及び自身で設定した具体的な課題について説明していない。 →「義務」を先に考えることによって、具体例が挙げやすくなることを指摘する。

4　指導上の工夫

この実践は、先哲の考えを実際の社会の意思決定に生かすというシンプルな展開であり、カント哲学に限らず、その他の「倫理」の単元においても活用することができる。また、どのような学力層の生徒を対象としても活用できるものとすることが重要であり、本校では、別紙のようなワークシートを作成した。その理論的基盤は次の図のように表すことができる。



この図は右側ほど、俯瞰的抽象的、そして高度な言語活動を伴う作業になっている。

(1)　「対象とする分野」（上段）

先哲の思想を用いる具体的場面が、自分自身の五感で感じ取ることができるＡ「身近な分野」なのか、それとも、抽象的思考に基づくＢ「社会全体に関する分野」なのかを表している。さらに、その分野をあらかじめ指導者などａ「他から与えられる」のか、ｂ「自ら見出す」のかという違いにも注目している。

(2)　「知識活用の状況」（中段）

先哲の思考手順をどのように用いるかについてである。左端は、指導者から１「状況が指摘されている」という前提で、それが先哲のどのような思考（キーワード）に当たるかを考えることであり、中央は、リード文や例文などの２「ある範囲から探す」ことである。そして、右端は、他の助力なく３「自ら状況を生み出す」ことを示す。

(3)　「知識活用の方法」（下段）

先哲の知識をどのように自らの言語で表現するかについてである。単にキーワードに当てはめて、ア「判別のみ」するのか、文章によって自らイ「言語で表現」するのかの違いである。

上記の考え方に基づくと、単に言語活動といっても、その場面、条件、方法によって多様な指導方法を展開することが可能となる。指導者には、単に「チョークアンドトークから脱却」へのアンチテーゼとして、「言語活動」という概念を単純に用いるのではなく、生徒の学習状況に応じてその水準を適切に設定していくことが求められる。本実践の設題構成は以下のとおりである。

・Ｑ１：「Ａ－ａ－１－ア」型

「身近な分野」において「他から与えられる」状況の中で「判別のみ」を行う作業

・Ｑ２：「Ａ－ａ－２－ア+イ」型、Ｑ３：「Ｂ－ａ－３－イ」型、Ｑ４：「Ｂ－ｂ－３－イ」型

本実践は、「言語活動」を通して自らの「理性」を働かせることがねらいであるため、生徒がＱ３やＱ４の質問形態に対してどのように取り組むかが肝腎である。

5　評価

Ｑ１及びＱ２については、教科書に掲載されている語句を十分に理解していれば記述できるので、とても良好な取組状況であった。そして、Ｑ３のように、あらかじめ場面設定されている状況においても、自分の考えを適切に文章化しようとする意欲が感じら

れた。しかし、Ｑ４において、社会的な事象を自ら進んで挙げた生徒がほとんどいないなど、生徒の認識の狭さについて垣間見ることができた。Ｑ３、４については、グループで考えを共有させたが、他人本位の傾向が強い生徒どうしでグループをつくると、お互いの意見に影響されるだけで認識が深まらず、学習が十分ではないと感じられた。また、グループ化して議論した内容の還元には、多くの時間を割く必要が出てしまった。さらには、生徒は「義務」を念頭において状況を想定することが難しかったようで、「道徳性」を求める場面において「適法性」の意味が込められた文章も見られた。

・Ａ段階と評価される例

テーマ：先生からの清掃ボランティアの依頼を受けた

仮言命法	街をきれいにしたいからごみ拾いをやろう。
定言命法	最近ごみを多く見かけるから拾わなければいけない
傾向性	友達も参加すると言っていたから私も参加しよう。
適法性	先生から依頼されたから受けなければ。
良心の呵責	地球環境にも良く、ごみも減り一石二鳥だから参加してみよう。

・Ｂ段階と評価される例

テーマ：「部活」

仮言命法	何か精一杯頑張ることをしたいのなら、部活に入れ。
定言命法	精一杯頑張ることをしない。ゴロのびはなく高校生活＝部活だろう!!!
傾向性	1年生のときは強制入部だったし、そのまま部活を続けよう…。
適法性	部活に参加しないと先生や友達に何か言われるだろうから毎日部活に行こう。
良心の呵責	強制とかでなく、人間関係、男の友情、技術向上のために部活はやるべきだ!!

6　今後の課題

(1) 生徒個々に働きかける

グループ化することによって、「一人一人が責任もって思考・判断をする」という雰囲気が薄らいでしまった。本実践においては、「理性」を働かせることが目的であるため、「汝の意志の格率が常に同時に普遍的な…」の「汝の意志」という部分をより強調する必要があった。これは本実践に限らず、授業形態として陥りがちなことである。本実践は、「アクティブラーニング（ＡＬ）」の一つとも言えるが、生徒の思考のアクティブさ、すなわち論理性や感性を問う展開になっているかを意識する必要があった。

(2) 主権者の育成について

主権を行使するために必要なのは、単なる選挙制度の理解ではなく、自らの価値観に基づいて世の中全体を見渡し、主体的な意思決定をする力を身に付けさせることである。生徒にそうした力を身に付けさせようとする際、どうしても現状から目的までの道程の遠さが目に付いてしまう。なぜなら、日常の授業形態は、「身近な分野」を「指導者が与え」、「限られた選択肢」の中から「判別」のみを行い、それには「正解・不正解」がついてくるという展開が指導者の念頭にあるからだ。上記の表で言えば最もclosedな状況下でしか生徒は学習を行っていないのだ。主権者を育成する上では、指導者が目的に向かって、より明確な目標を設定しつつ授業を展開する必要があると考える。

【資料１】ワークシート

倫理　ワークシート　～カントの思想を用いて現代社会を見つめる～

●次の文章を読んで、以下の問いに答えよ。

高校生Ａ　最近返却された模擬試験の成績が悪くて落ち込んでいるんだ…ⓐ親に勉強しなさいって言われるから勉強はしっかりしてきたのに。

高校生Ｂ　勉強していたのに成績が振るわないから辛いね。私も塾が毎日あるから勉強はしているけどなかなか成績が伴ってこないの。しかも、学校からの課題がたくさんあってなかなか自分の勉強に手が回らないし。

高校生Ａ　Ｂさんもⓑ大変そうだし一緒に宿題をやろうか。ところで進路のことはどう考えているの？

高校生Ｂ　私はⓒ身分が安定してる公務員になろうかと思っているんだ。でも高卒で受験するよりも大卒で試験を受けた方が、大学４年間楽しく過ごせそうだと思うの。クラスのみんなは大学にいくみたいだしさ。Ａさんは？

高校生Ａ　わたしはまだよく分からないなぁ。ⓓ自分の学力に見合った大学に行ければいいかなと考えているよ。

高校生Ｂ　でも学力に合うだけで大学を選んでいいの？ⓔ大学は学問を研究しに行く場所だからもう少し考えた方がいいよ。

Q1　本文中の下線部ⓐ～ⓔについて、「傾向性」「適法性」「道徳性」のどれにあたるか答えよ。

【答え：ⓐ適法性　ⓑ傾向性　ⓒ傾向性　ⓓ傾向性　ⓔ道徳性】

Q2　本文中の下線部以外に、「傾向性」「適法性」に該当する箇所がいくつかある。その箇所に二重線を引き、「道徳性」に基づく発言に修正しなさい。

【答え：「塾が毎日あるから勉強はしている」：適法性
→塾があるからではなく、自分の学力向上と習慣作りのために塾を活用すべき
「大学生活４年間楽しく過ごせそう」：傾向性
→大学は楽しく過ごすことが本来の目的ではなく、学問研究をしに行く場所である
「クラスのみんなは大学に行くみたい」：傾向性
→クラスのみんなに流されるのではなく、自分の意志によって大学に行くべき　】

Q3　次の表中の題材について、それぞれ空欄に当てはまる文章を記しなさい。

例)『勉強に一生懸命取り組もう！』

仮言命法	もし良い大学に入りたいのなら、勉強をしなさい。
定言命法	大学に入る入らないに関係なく、高校生として必要な勉強はすべきだ。
傾向性	みんなが勉強しているから、私も勉強をする。
適法性	親に怒られるから、毎日勉強をしている。
良心の呵責	怒られるからとか、みんながやるからではなく、自分のために勉強をすべきだ。

※生徒の解答例

テーマ：納税の義務

仮言命法	社会の一員になりたいなら、納税する。
定言命法	社会の一員になるならないではなく、この社会で生きるならすべきだ。
傾向性	みんなが納税してるから、私も納税する。
適法性	捕まるから、納税する。
良心の呵責	将来、自分が社会制度を受けながら、快適な生活を送りたいならすべきだ。

仮言命法	もし自分が年をとっていい生活をおくりたいなら納税しなさい。
定言命法	自分の将来に関係なく、人間として納税すべきだ。
傾向性	みんなが納税しているから私もやる。
適法性	納税しないと捕まるからやる。
良心の呵責	みんながしているからや、捕まるからするのではなく今の老人のことを考えて納税すべきだ

テーマ：18歳選挙権

仮言命法	もし、自分の意見を取り入れてもらいたいのなら、18歳以上の人は選挙に参加しなさい。
定言命法	18歳以上の人は政治に参加しなければいけないので、選挙に行かねばならない。
傾向性	自分の周りの人が選挙に行くので、自分も選挙に行く。
適法性	「最近の若物は」と1つの枠に入れられたくないので選挙に行く。
良心の呵責	今の選挙は高齢令層の人々だけの物になりつつある。若者の意見を取入れてもらうためには必要。

仮言命法	もし自分の意見が社会に反映されたいのなら 投票しなさい。
定言命法	選挙に興味があるとかないではなく、18歳以上で投票する権利があるから投票すべきだ。
傾向性	みんな投票するから自分も投票する。
適法性	親とか家族に言われるから投票する。
良心の呵責	政治に興味があるなしではなく、投票できる年齢になったのだから日本国民としてちゃんと投票に参加するべきだ。

仮言命法	もし自分の意見を反映させたいなら 投票しなさい。
定言命法	自分の意見が通る・通らない関係なく、有権者として投票するべきだ。
傾向性	友達が投票すると言っていたので、私も投票する。
適法性	テレビでするべきだと言っていたので、投票する。
良心の呵責	国のあり方をより良い方向に持っていくために、投票するべきだ。

Q4　現代社会を見渡して、具体的な事例を自ら設定して下の表を埋めなさい。

※Q3と同様の表を用意

授業実践例②

諸子百家の思想を手がかりとした主権者教育

―孔子・孟子・墨子の思想からクラスの「級訓」を考えさせる―

1　指導のねらい

平成 27 年 6 月 17 日、公職選挙法が改正され、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられたのに伴い、高等学校における主権者教育のより一層の充実が求められ、その中核となる公民科の授業において、社会との関わり方についてより深く考えさせることが重要となってきた。現代の社会は、様々な分野で高度化・複雑化が進んでいるが、社会を形成しているのは一人一人の市民であることに何ら変わりはない。

ここでは、諸子百家の思想を手がかりに、生徒にとって最も身近な社会の一つであるクラスの「級訓」を作成させることにより、社会との関わり方について深く考えさせ、よりよい社会の形成者としての自覚を高めさせる実践例を紹介したい。

2　教材

(1) 教科書『現代の倫理』(山川出版社)
(2) 資料集『最新図説倫理』(浜島書店)
(3) ワークシート

3　指導計画（全２時間）

(1) １時間目

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5 分)	・本学習（２時間）の内容 ・本時の内容	・本学習（２時間）で取り組む内容について知る。 ・本時の学習内容について知る。	・本学習（２時間）では、諸子百家の思想を手がかりに、「級訓」を作成することを伝える。 ・本時は、諸子百家のうち孔子、孟子、墨子の思想について学ぶことを伝える。	
展開① (10 分)	・孔子の思想	・教師の説明を聴くだけでなく、資料集の原典に触れることにより、孔子の思想について深く理解する。	・それぞれの思想について、他の思想家との違いに着目させながら理解を深めさせる。	
展開② (10 分)	・孟子の思想	・教師の説明を聴くだけでなく、資料集の原典に触れることにより、孟子の思想について深く理解する。		
展開③ (10 分)	・墨子の思想	・教師の説明を聴くだけでなく、資料集の原典に触れることにより、墨子の思想について深く理解する。		

まとめ (15分)	・まとめ	・本時に学習した３人の思想を自分の言葉でまとめ、ワークシートに記入する。		◎1

本時の評価規準（◎１について）

【評価の観点】「知識・理解」　　【評価方法】ワークシート

【評価規準】　孔子、孟子、墨子の思想について理解し、適切に文章にまとめている。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・孔子、孟子、墨子の思想について理解し、適切に文章にまとめている。
A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・孔子、孟子、墨子の思想について理解し、その思想のキーワードとなる言葉を明確に盛り込みながら、文章にまとめている。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・孔子、孟子、墨子の思想について理解した内容を、文章にまとめていない。 →ワークシートにヒントを朱書きして返却し、再度提出させる。

(2)　２時間目

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	・本時の内容	・本時の学習内容を知る。	・本時は、グループに分かれ、前回学習した諸子百家の思想を手がかりとした「級訓」を作成することを伝える。	
展開① (20分)	・「級訓」づくり	・グループごとに割り当てられた諸子百家の思想を手がかりとした「級訓」を作成する。 ・作成した「級訓」を模造紙にまとめる。 ・グループで作成した「級訓」を各自のワークシートにも記録する。	・クラスを６グループに分け、３人の思想家について各２グループずつを割り当てる。 ・模造紙は発表に用いることを踏まえて、大きくはっきりと書くよう指示する。	◎2
展開② (15分)	・各グループによる発表	・グループごとに発表する。	・他のグループの発表を聴きながら、ワークシートの記録欄に簡単なメモを取らせる。	
まとめ (10分)	・振り返り	・今回の授業で学んだことや授業の感想をワークシートに記述する。		

本時の評価規準（◎２について）

【評価の観点】「思考・判断・表現」　　【評価方法】模造紙

【評価規準】　諸子百家の思想を踏まえて「級訓」を作成している。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・諸子百家の思想を手がかりとした「級訓」を作成している。

A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・諸子百家の思想を手がかりに、キーワードを盛り込みながら「級訓」を作成している。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・諸子百家の思想を手がかりとした「級訓」を作成していない。 →「級訓」づくりの時間に机間巡視して、適切な助言をする。

4　指導上の工夫

(1) 諸子百家の思想を学習させる際には、教師による説明だけではなく、できるだけ原典を読ませることにより、諸子百家の思想に直接触れられるよう工夫した。

(2) 諸子百家の思想について学んだ後で、それぞれの思想の特徴を自分の言葉でまとめさせることにより、彼らの思想についての理解を深められるよう工夫した。

(3) 諸子百家の思想を手がかりとした「級訓」をまとめさせることにより、思考力や表現力を身に付けさせるよう工夫した。

(4) 他のグループが発表する際に、ワークシートの記録欄に簡単なメモを取らせることにより、諸子百家の思想についての理解を深められるよう工夫した。

5　評価

(1) 評価◎１について

ア　「B」評価の例

① 孔子の思想 「仁」とは人を愛すること。この愛は家族愛からきている。「恕」とは思いやり。 ② 孟子の思想 性善説を説いた。四徳や四端の心、惻隠の心。力強い気分を浩然の気とよぶ。 ③ 墨子の思想 孔子の仁は、家族にだけ向けられた差別的な愛だといって批判。すべての人への兼愛を説いた。

この生徒は、キーワードを用いて諸子百家の思想をまとめているが、キーワードの説明が不十分なうえ、それらのキーワードがどのように関連しているのかを明確に記述していないため、「B」評価とした。

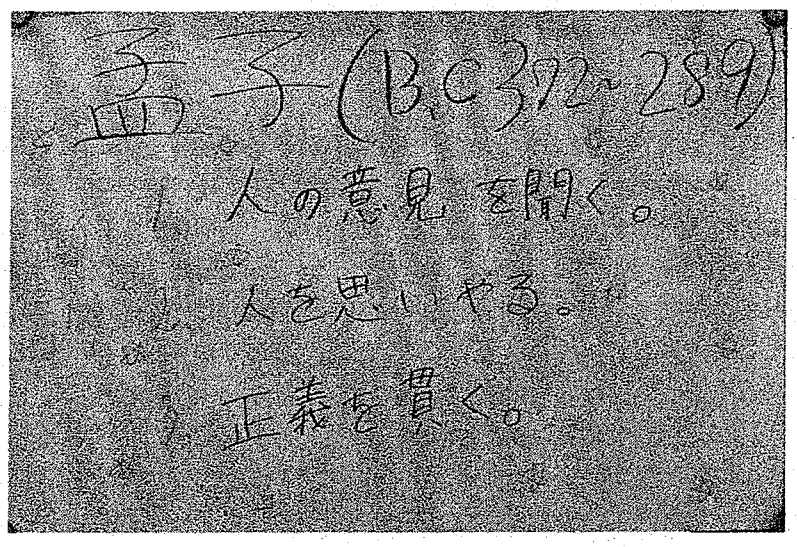
イ　「A」評価の例

① 孔子の思想 孔子は、徳を身に付けた高い人格の完成を目指したが、その基本的な徳を「仁」と呼ぶ。仁は、「孝」という親を慕う気持ちと「悌」という兄弟に対する親愛の情からなる。このような「仁」を普遍的な人間愛にまで高めていけば社会の秩序は回復できる。 ② 孟子の思想 人間の本性は善であるという性善説を説き、善い心の芽生え（四端）が育って実現する徳（四徳）を備え、どんな場面でも正義を貫こうとする人を理想とした。 ③ 墨子の思想 人を一人殺すと罰せられるが、戦争で敵を多く殺すと英雄になる。これは大きな矛盾であるが、その原因は、自分の家族や国家のみに愛着をもっているから（別愛）である。すべての人を愛する（兼愛）ことで、誰かが誰かを攻撃することはなくなり（非攻）、平和がもたらされる。

この生徒は、諸子百家の思想のキーワードについてポイントを押さえて記述しているとともに、それぞれのキーワードの関連についても的確に触れられているため、「A」評価とした。

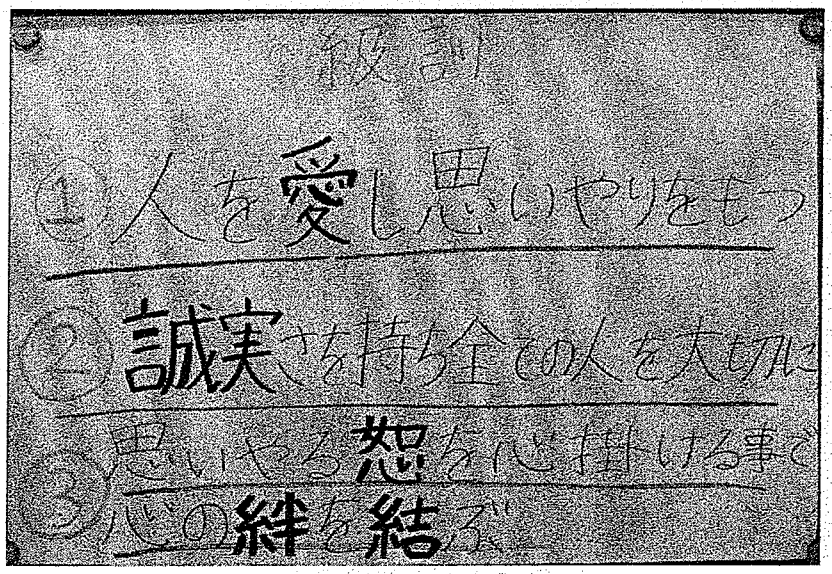
(2) 評価◎２について

ア　「B」評価の例



この班は、孟子の思想を手がかりとした「級訓」を作成した。「１．人の意見を聞く」は、四徳のうち「礼」に、「２．人を思いやる」は、四徳のうち「仁」に、「３．正義を貫く」は、四徳のうち「義」に基づいて作成したと思われる。しかし、「級訓」としてはやや簡素で、孟子の思想のキーワードが明確に盛り込まれていないことから、「B」評価とした。

イ　「A」評価の例



この班は、孔子の思想を手がかりとした「級訓」を作成した。「①人を愛し思いやりをもつ」は「仁」に、「②誠実さを持ち全ての人を大切に」は「忠」に、「③思いやる恕を心掛ける事で心の絆を結ぶ」は「恕」を踏まえて作成したものと思われる。孔子の思想のキーワードが的確にまとめられ、その思想のポイントがバランスよく盛り込まれていることから、「A」評価とした。

6　今後の課題

今回の授業は、孔子、孟子、墨子の思想を自分の言葉で文章としてまとめる場面と、グループごとに彼らの思想を手がかりとした「級訓」をまとめる場面で構成した。

前半の場面では、「自分の言葉にするのに頭を使った」、「先生の話を聴いているよりも、こちらの方が頭に入るかも」という生徒の感想も見られ、教師の話を聴いて板書するだけの受動的な学習から脱却し、先哲の思想を能動的に学ばせるというねらいを達成することができた。

一方、ほとんど何も書けなかったり、単なるキーワードの羅列に終わったりする生徒も見受けられたことから、このような生徒へのフォローに心がけたうえで、ある程度継続して、文章としてまとめる場面を設定することが大切であると感じた。

後半の「級訓」を作成させる場面については、当初、諸子百家の思想を手がかりとしたものになるのか不安であったが、「難しかったけど、みんなで考えることができて楽しかった」との感想にあるように、各班で協力して、諸子百家の思想を手がかりとした「級訓」を自分たちの言葉でまとめようとしていた。「孔子、孟子、墨子ともに現在の人間に足りていないことを言っていると思った」という感想もあり、諸子百家の思想は、単なる古典文学としてだけではなく、現代人の生活にも十分生かせるものであることを実感したようである。

さらには、「級訓」をまとめるだけでなく、担任の許可を得てクラスに掲示し、実際のクラスの中で生かすことができれば、生徒の社会参画への意識はさらに高まっていくであろう。

また、本来は生徒一人一人の学びを評価すべきであるが、今回の後半の場面では、各グループが作成した模造紙に基づいて学習を評価しており、個々の生徒の学習活動を適切に評価できなかった。個々の学習活動を適切に評価するためには、グループ活動の後、今回の授業で何を学んだのか、授業前と授業後で自らの考えがどのように変わったのかなどをワークシートに記述させ、それらも評価の資料として加える必要がある。

【資料１】ワークシート

諸子百家の思想を手がかりにクラスの級訓を考えよう

1．孔子、孟子、墨子の思想を自分の言葉で下にまとめておこう。

（1）孔子の思想

（2）孟子の思想

（3）墨子の思想

2．あなたのグループ名と、あなたのグループが担当する思想家を記そう。

グループ名：（　　）班

担当する思想家：（　　）

3．あなたのグループが作成した級訓を下に記録しておこう。

4．他のグループの発表を聴いてメモを取ろう。

グループ名	担当した思想家	級　訓
班		
班		
班		
班		
班		

5．今回の授業を受けて学んだことや感想を書こう。

クラス		番号		氏名	

授業実践例③

先哲の思想を踏まえた意思決定の授業実践
ーグループワークを通して「所得の再分配」について考えるー

1　指導のねらい

2015年の公職選挙法改正により、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられた。2016年には参議院議員選挙が予定されており、現在の高校３年生及び２年生の一部は、選挙権を行使することが可能となる。

こうした中、高校生からは、「政治に興味がない」、「どの政治家（もしくは政党）に投票すればよいか分からない」という声も聞かれる。公民科の教員としては、「学習指導要領」に記されている「良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」という公民科の目標を再度確認する必要がある。

今回は、その目標を達成させるための「主権者としての自覚」及び「社会参画の力」を育む授業について考えた。具体的には、20世紀アメリカの政治哲学におけるロールズの「公正としての正義」と、それを批判したノージックの「自由主義」を踏まえ、その両者を比較させながら、日本の格差問題を解決するためにどのような政策を実施すべきかについて意思決定させる授業を構想した。そして、格差問題について調べ、他者との意見交換や討論などのグループワークを通して、格差問題の解決策の一つである「所得の再分配」という政治的課題に対する「自分自身に固有な選択基準ないし判断基準」や「人生観、世界観ないし価値観」の形成を目指した。

2　教材（参考資料）

(1)　教科書『高等学校 現代倫理 最新版』（清水書院）
(2)　ワークシート「格差問題について考える」
(3)　『これからの「正義」の話をしよう～いまを生き延びるための哲学』（サンデル著、鬼澤忍訳、2011、ハヤカワ・ノンフィクション文庫）

3　指導計画（全２時間）

(1)　１時間目

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 （５分）	・本時の予告	・本時の学習内容の把握		
展開 ① （25分）	・日本における格差問題 ・ロールズの「公正としての正義」 ・ロールズに対する批判	・日本における格差問題について調べる。 ・ロールズの「公正としての正義」について理解する。 ・ノージックの自由主義について理解する。	・相対的貧困率の推移や、上位所得者の国全体の所得に占める割合などの表を使って説明する。 ・平等と機会均等という観点から説明する。 ・経済活動における自由の重視という観点から説明する。	
展開② （10分）	・「格差問題について考える」	・ワークシートの課題文を読む。		
まとめ （10分）	・意見の表明 （ワーク１及び２）	・それぞれの文章に対する自らの考えをまとめる。	・それぞれの文章で「共感できる」点と「共感できない」点を抜き出し、その理由を付け加えさせる。	◎１

本時の評価規準（◎１について）
【評価の観点】「思考・判断・表現」　【評価方法】ワークシート
【評価規準】　ロールズとノージックの思想について、現在の日本の格差問題と照らし合わせながら、自分なりに評価している。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・ロールズとノージックの思想について、日本の格差問題と重ね合わせながら、彼らの思想の中で共感できる点（または共感できない点）を指摘している。
A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・ロールズとノージックの思想について、日本の格差問題と重ね合わせながら、彼らの思想の中から共感できる点（もしくは共感できない点）を、その理由を示しつつ指摘している。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・ロールズとノージックの思想について、日本の格差問題と重ね合わせることができず、彼らの思想の中から共感できる点（もしくは共感できない点）を指摘していない。 →２時間目の導入で、他の生徒がまとめた共感できる点を読み上げ、それを参考にまとめて再提出するよう促す。

(2)　２時間目

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 （５分）	・前時の確認	・前時の内容を復習する。 ・本時の学習内容を把握する。	・ワークシートの主なまとめを紹介する。 ・ワークシートの課題について説明する。	
展開 ① （20分）	・グループ協議（ワーク３）	・格差問題の解決策としての「所得の再分配」を進めるべきかどうかについて、グループごとに話し合う。	・グループごとに実例を挙げながら助言する。 ・生徒が教員の考えに左右されないように留意する。 ・話し合う時間を区切る。	
展開 ② （10分）	・全体発表	・グループごとに発表し、様々な意見を知る。	・それぞれのグループごとに出された意見をワークシートに記入させる。	
まとめ （15分）	・意思決定（ワーク４）	・グループで討論した内容を踏まえて、「所得の再分配」を進めるべきかについての考えをワークシートに記入する。		◎２

本時の評価規準（◎２について）
【評価の観点】「思考・判断・表現」　【評価方法】ワークシート
【評価規準】　「所得の再分配」について、他者の意見を参考にしつつ、自分なりの意思決定をしている。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・「所得の再分配」について、他者の意見を参考にしつつ、自分なりの意思決定をしている。

A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・「所得の再分配」について、他者の意見を参考にしつつ、その理由について論理的にまとめながら、自分なりの意思決定をしている。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・「所得の再分配」について、自分なりの意思決定をしていない。 →他の生徒の記述を参考にさせながら、意思決定をする際のポイントに触れ、意見をまとめるように促す。

4　指導上の工夫

(1) 第１時限について

導入では、統計資料を用いながら、日本の格差問題の現状について理解させた。そして、アメリカの政治哲学を踏まえて、「自由」、「正義」という概念について改めて捉えさせた。

その後、ロールズの「公正としての正義」と、それを批判するノージックの「自由主義」の違いについて具体的に考察させた。こうして両者の思想を比較させることにより、第２時限で扱う「所得の再分配」の賛否について自分なりに考察し、日本の「所得の再分配」を進めるべきかという課題の解決につながるよう授業を展開した。

(2) 第２時限について

第１時限でロールズ、ノージックについて学んだ内容を踏まえて、グループで討論させた。その際、他者の様々な意見に触れることにより、第１時限で学んだ内容をより深く理解させることができた。そして、「所得の再分配」の賛否だけでなく、「小さな政府」と「大きな政府」の賛否についても意思決定させた。今後の日本の政治の在り方については、自らの言葉で論理的にまとめさせた。

5　評価

(1) 評価については、現状の課題に対する意思決定を授業の主なねらいとしたため、「思考・判断・表現」に重点化した。

(2) 評価規準の設定

ア　評価◎１について

それぞれの思想に対して「共感できる点」、または「共感できない点」を抜き出しただけのものを「B」評価とした。また、「共感できる（できない）理由」について論理的に説明しているものを「A」評価とした。

・「A」評価の例

・A　「国家が強制すべきでない」のは正しくない。 （日本人の性格からして、国家により強制されないと貧しい人を助けないと思う） ・B　「結果の平等を目指す」のは正しくない。 （一生懸命働いた人と、機会がなかったために働いていない人の所得を同じにするのは、働いた人がかわいそうだし、自分でどん底からはい上がった人もいる。）

イ　評価◎２について

(ｱ)　「Ｂ」評価の例①

この生徒は、「所得の再分配」について意思決定をし、その理由を自分なりの言葉で述べているので「Ｂ」評価とした。

「課題」は正しくない。今まで歴史の中で社会主義など平等を目指す政策などが行われていたが、平等とは個人の感じ方に違いがあり、どれだけ平等を目指しても格差は必ず生まれるものである。再分配などで少しずつ平等を目指していくのではなく、自分の力で得たものを自由に使える社会を目指していけば、平等ではないかと感じる人も出てくると思うので、Ａの意見のような政策をするべきだと思う。税などで取らなくても人はそれほど残酷ではないので、少しでも社会のために貢献してくれる人もいると思う。

(ｲ)　「Ｂ」評価の例②

この生徒は「所得の再分配」について意思決定し、今後どのような政策を進めるべきかについて自分なりの言葉で述べているので「Ｂ」評価とした。

正しいと思います。ただ、働けるのに働かない人ではなく、重い障害があって働きたくても働けない人など、本当に困っている人だけに与えるべきだと思います。また、生活が苦しい人に「与える」という政策だけではなく、低所得者を「生み出さない」政策も同時に推し進める必要性があると思いました。 今日は学力が重視される社会なので、特に子どもたちに対し学ぶ機会の平等を与えるということが大切だと思います。

(ｳ)　「Ａ」評価の例

この二人の生徒は、「所得の再分配」について意思決定をし、そのように考えた理由とともに、今後どのような政策を進めるべきか論理的に述べているので「Ａ」評価とした。

所得の再分配は正しい面もありますが、努力して高所得になっている人達からすれば、不満があって経済に対する意欲低下にもつながってしまいます。なので、分配の比率を下げ、最低限のセーフティラインを設定します。そして、低所得者の底上げのみを行い機会の平等もある程度整えたら、そこからは各自の能力や努力により社会的地位を確立していくべきだと思います。 さらに信用社会にしていくことで人々が信頼関係の構築により、様々な自由の恩恵を受けることができるようになると考えます。

私は所得の再分配を行うことは正しいと思います。貧困層の人が再分配によって仕事に就けるようになって、富裕層の人々の所得に貢献できれば、全体的に人々の生活が安定するようになると思います。そして、再分配を行うだけではなく、努力や才能で成果を残した人たちが同時にしっかりと報われるような社会にしていけば問題はないと思います。

(3)　グループワークを通した思考の深まり

３年生の文型１クラス（36名、男子19名、女子17名）で授業を実践したところ、ワークシートの「ワーク１」に対する支持数は、「Ａ（ノージック）の考え」21名、「Ｂ（ロールズ）の考え」12名、「どちらも正しくない」３名であった。その

後のグループワークによって、「ワーク４」では、「ワーク１」で自ら支持した考えをそのまま自らの意思とした生徒は21名、「ワーク１」の考えを変化させたり、両論の長所・短所を述べた生徒は15名であった。

また、「ワーク１」での考えをそのまま支持した生徒も、グループワークによってその考えを深化させ、論理的に「所得の再分配」について意思決定することができた。評価◎２における「Ａ」評価の生徒は20名、「Ｂ」評価の生徒は16名という結果となった。

以下に、グループワークを通して思考が深った生徒の例を示す。

私はＢが絶対に正しいと思っていたけれど、Ａを支持する人たちの意見を聞いて、Ａの意見もすごくいいと思いました。特に、なるほどと思ったのは、○○君が言っていた意見で、「子どもに対する手当はしっかりして、（人生）のスタートラインを同じにして後は能力勝負」ということころです。そうすればしっかりとした社会になり、全て責任は自分にあるという社会になり、よいサイクルだと思います。

6　今後の課題

主権者教育という観点から、ロールズとノージックの思想を踏まえて、「所得の再分配」の在り方について考察するという授業を構想した。生徒はワークシートの課題文を読み取り、自らの立場を明確にした後に、グループワークで他の生徒の意見を聞き、自らの考えを深めていった。当初、Ａのノージック的な政治が正しいとした生徒が、グループ内の意見交換やグループごとの発表を通して、Ｂのロールズ的な政治が正しいと考えを変える例も見られた。また、グループごとの発表では、自分とは異なる考えに触れ、とても有意義な時間であったと感想を書く生徒も多かった。

しかし、課題である格差問題については、一面的な見方しかできない生徒が多かった。例えば、貧困層の拡大に対しては、高齢社会や非正規雇用などの増大に着目することができず、貧困は本人の努力不足であると断ずるものも少なくなかった。マスメディアなどで取り上げられた「生活保護費の不正受給」などが、強く印象に残っているためと思われる。

また、数字を提示するだけでは具体的なイメージが湧かず、現在の自らの立場（収入・生活環境など）に照らし合わせて、「所得の再分配は必要ない」と答える生徒が多かった。そのため、ロールズやノージックの思想を踏まえて、これからの日本の政治の在り方を考えるという当初の目的が不明確になってしまった。

今後の課題としては、「倫理」の年間指導計画の中に、このような意思決定させる場面をできるだけ盛り込み、まずは身近で起こっている問題の解決の方法を考えた後に、主権者として社会の問題にどう取り組むべきかについて考察させる必要がある。そのためには、先哲の思想を踏まえて、グループワークを通した身近で具体的な問題の解決方法を探る授業を今後も実践する必要がある。

ワークシート「格差問題について考える」２

課題「今後一層の高齢社会や所得格差が進むと予想される日本において、これまで以上に富裕層に対する所得税や相続税、株式の配当などに対する課税強化を行い、それを財源として高齢者や貧困者への福祉を充実させる所得の再分配を行うことは正しいか。以下のＡ・Ｂの考えを参考にして自らの意見を述べなさい」

Ａの考え
「富裕層に対する課税強化はすべきでない。なぜなら、所得に対して課税が強化されたら、勤労意欲の低下を招くであろう。仕事は各人の努力と才能の成果であるのに、所得の多くが税金で持っていかれ、自らの自由にならないとしたら、仕事で成功した人が報われず、経済的に成功する意欲や夢が失われ、社会全体の発展が停滞するであろう。また、課税強化による所得の再分配で貧困に苦しむ人が助かるとしても、それは収入に余裕のある人の自発性に求めるべきであって、国家が強制するべきではない。例えば個人の所得に対して３０％の税金をかけることは、その人の仕事の時間の３０％を国家のための労働に費やすことを国家が命じるのと同じである。また、国家がその再分配を担えば、そこには利権や効率の問題が起こり、適切な所得の再分配ができない可能性もある。」

Ｂの考え
「富裕層に対する課税強化はすべきである。なぜなら、所得格差は人生のスタートラインがそろっていないという社会的格差によって生じるからである。また、経済的に成功しようとか、夢を叶えようといった意欲は家庭環境をはじめまわりからあたえられたものであり、本人自身がその所得を形成するために自らの才能を生かしたり努力したりしても、その才能や努力が生かせる社会環境にめぐりあったことは単なる偶然に過ぎない。もし、人々が自分の才能も置かれている社会環境も分からない状態で、大金持ちになれるかもしれないが、ホームレスになる可能性もあるという立場に立ったなら、底辺層を切り捨てるようなシステムを選択はしないであろう。そのためには、機会の平等とともに結果の平等を目指した所得の再分配は必要である。」

ワーク１：あなたはどちらの考えが正しいと思ういますか。（そう思うものに○をつける）

Ａの考え　　Ｂの考え　　どちらも正しくない

ワーク２「あなたはそれぞれの考えに対する理由のなかで一番共感できる箇所および共感できない箇所はどこか。以下に抜き出し記入しよう。」

（共感できる）所得格差は人生のスタートラインがそろっていないという社会的格差によって生じる

（共感できない）経済的に成功する意欲や夢が失われ社会全体の発展が停滞

ワーク３「グループで話し合いそこで出た意見を記しなさい」（賛成意見・反対意見）

Ａに対する意見	Ｂに対する意見	その他
賛 個人の能力による意欲 所得の再分配の比率を下げて頑張れる状況を作る（危機感を持ってモチベーション） ・底上げだけ行ってスタートラインのみととのえる。	反 機会の平等 結果の平等 自分がかわいい 所得の再分配 雇用の充実により低所得を打破する。 → そこからは人間の能力や努力	結果は平等ではなく人々の努力によって定まる 最低限のセーフティーラインの確保 信用社会 人間の信頼関係と染恵により老後を保証する

ワーク４「グループで話し合ったことにもとづいて、あなたの「課題」に対する考えを以下にまとめなさい」

所得の再分配は正しい面もありますが、努力して高所得になっている人達からすれば不満があって経済に対する意欲低下にもつながってしまいます。なので分配の比率を下げ、最低限のセーフティラインを設定します。そして低所得者の底上げのみを行い機会の平等をある程度整えたら、そこからは各自の能力や努力により社会的地位を確立していくべきだと思います。さらに信用社会にしていくことで人々が信頼関係の構築により様々な自由の恩恵を受けることができるようになると考えます。

A

授業実践例④

他者と「共に生きる」有権者を育てるシティズンシップ教育

―投票しない行為を弁証法的に統一して模擬選挙に臨む―

1　指導のねらい

改正公職選挙法が成立し、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられるのに伴い、高校における主権者教育やシティズンシップ教育の必要性がますます高まっている。いずれは、高校の同じ教室の中で、有権者である生徒と、有権者ではない生徒、あるいは国籍等により年齢に関係なく選挙権が与えられない生徒とそうでない生徒が共に学ぶ時が訪れることになる。

「高等学校学習指導要領」では、「倫理」の目標に、「他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」と記載されている。

本実践では、模擬選挙での投票を通して、「良識ある公民」として必要な能力と態度を育てることを目指した。そして、投票しない他者と「共に生きる」有権者をこれからの日本人の在り方の一つのモデルとして設定し、ヘーゲルの弁証法や和辻哲郎の思想を踏まえて、どのような態度で投票に臨むべきかについて主体的・協働的に考察させた。

なお、今回の対象クラスは、「選挙出前トーク」（愛知県選挙管理委員会）を別の授業で実施することになっており、本実践はその準備段階の一つとして設定したものである。

2　教材

(1) 教科書「高等学校　倫理」（第一学習社）
(2) ワークシート１「共に生きる社会を目指して　和辻哲郎の思想から」
(3) ワークシート２「共に生きる社会を目指して　インタビュー＆マンダラート」

3　指導計画（２時間）

(1) １時間目

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10 分)	・本実践の予告 ・アクティブラーニングの説明 ・分担	・全体の活動及び本時の活動を見通す。 ・アクティブラーニングの意義について理解する。 ・クラスで対象を分担する。	・冒頭で全体計画を伝え、「見通す力」を養わせる。 ・学びの結果及び過程、主体的・協働的に学ぶ態度を重視していることを意識させる。 ・人口比に反映させる。	
展開 (30 分)	・和辻哲郎の思想 ・類推	・和辻哲郎の思想について理解する。 ・和辻哲郎の思想を踏まえ、類推する。	・日本独自の思想であることを理解させる。 ・類推は気付かない相手とも共生しようとする行為であることを意識させる。	
まとめ (10 分)	・本時のまとめ ・次時の予告と課題	・学習した内容を個人でまとめる。 ・次時のために、事前インタビューが必要なことを理解する。	・ワークシートに記入させる。 ・事前インタビューの重要性を理解させ、対象が見つからない場合の対応を指示する。	◎1

本時の評価規準（◎１について）

【評価の観点】「関心・意欲・態度」　【評価方法】ワークシート１

【評価規準】　和辻哲郎の思想を踏まえて、これからの日本社会における有権者として求められる社会との関係を弁証法的に統一し、他者と共に生きる自己の在り方生き方について主体的に探究しようとしている。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・和辻哲郎の思想を踏まえて、これからの日本社会における有権者として求められる社会との関係を弁証法的に統一し、他者と共に生きる自己の在り方生き方について、類推により主体的に探究しようとしている。
A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・和辻哲郎の思想を踏まえて、これからの日本社会における有権者として求められる社会との関係を弁証法的に統一し、他者と共に生きる自己の在り方生き方について、多面的・多角的な類推により主体的に探究しようとしている。
C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・他者と共に生きる自己の在り方生き方について、類推により主体的に探究していない。 →具体例を提示し、類推により探究できるよう支援する。

(2)　２時間目

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	・本時の予告	・事前インタビューの結果から、投票しない理由を導くことを意識する。	・本時の予告を行い、前時の学習をさらに深めるよう促す。	
展開１ (15分)	・結果発表	・事前インタビューの結果をクラス全体に発表する。	・多様な立場、多様な意見から共通性や特性を見いだす。	
展開２ (20分)	・投票しない理由を類推 ・結果発表	・投票しない理由について、「マンダラート」を用いて類推する。 ・類推の結果をクラス全体に発表する。	・自由に発想させる。 ・投票しないという行動は同じでも、様々な理由があることに気付かせる。	
まとめ (10分)	・まとめ	・全体の発表結果を踏まえ、他者と共に生きる自らの在り方についてまとめる。	・今後の投票行動の参考になるよう、意識付ける。	◎２

本時の評価規準（◎２について）

【評価の観点】「思考・判断・表現」　【評価方法】ワークシート２

【評価規準】　前時の結論とクラス全体の発表結果を踏まえ、投票しない他者と「共に生きる」有権者としての自己の在り方について考察した結果をまとめている。

B（おおむね満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・前時の結論とクラス全体の発表結果を踏まえ、投票しない他者と共に生きる有権者としての自己の在り方について考察した結果をまとめている。
A（十分満足できる状況）と評価される、より具体的な記述例
・クラス全体の発表結果を踏まえ、前時の結論より自らの考えを深め、投票しない他者と共に生きる有権者としての自己の在り方について考察した結果をまとめている。

C（努力を要する状況）と評価される例と教師の指導
・投票しない他者と共に生きる有権者としての自己の在り方について考察できていない。 →クラス全体の結果を参考にさせ、思考・判断・表現できるよう支援する。

4　指導上の工夫

(1) 事前インタビューの確実な実施

本実践においては、類推した結果を検証するために、授業時間以外で実施する事前インタビューを確実に実施するよう伝えた。その際、事前インタビューの対象者が身近にいないなど、インタビューが難しい場合の指示を以下のように行った。

・対象となる年代の教員にインタビューしてもかまわない ・又聞きでもかまわない ・ネットなどの意見でもかまわない

その結果、職員室等で教員に質問したり、教室でクラスメイトに質問したりする姿がよく見られた。さらには、家族での話題として取り上げられたケースが多く、その結果も真摯なものばかりであったことは特筆すべきである。

(2) 類推による見えない他者への想像

類推は、生徒にとって、定着しやすい活動である。生徒が日常生活においても多面的・多角的な視点をもつことを期待して意識的に導入した。

(3) 全員が有権者として思考できる条件

教室には有権者とそうでない者が混在している可能性があり、有権者でない者を探し出すことが懸念された。しかし、模擬選挙においては、全員が有権者として一票を投じることになるため、全員が有権者としての立場から、投票しない理由について類推させることができた。

(4) 限られた授業時間で活動するための工夫

ア　生徒を揺さぶる指示

机間指導等で活動の過程を確認し、新たな視点を提示したり、思考を深めるヒントを与えたりした。生徒の意見を誘導させないよう注意することが重要である。

イ　「マンダラート」及び「ＫＪ法」

「マンダラート」は、発想法の一つである。手順として、まず９個あるマス目（３×３）の中心の１マスに課題を書き、周囲のマスには関連事項や解決策等を記す。次に、周囲の８マスの中から１マスを選び、そこに記載されている内容を新たな９マスの中心に転記した後に、関連する事項を周囲のマスに記していく。この一連の活動を通して、生徒の思考は広がりや深まりを見せる。事実、この手法を用いたことで、短時間のうちに多様な発想を促すことができた。

「ＫＪ法」は、意見をカードに記入してグループごとに分類する手法である。これをクラス全体で行うことにより、短時間でクラス全体の意見を効率的にまとめることができた。

5　評価

(1) １時間目

評価結果【関心・意欲・態度】　「Ａ」…20％、「Ｂ」…80％、「Ｃ」…０％

○「Ａ」評価の例
・人だけでなく、世の中だけでもない、二つを合わせた人間であるべき。よって人の

ことを考える政策と世の中のことを考える政策の互いの政策の欠点を知っていて、それを補える人に投票すべき。
○「B」評価の例
・自分の主張も大切だが、社会全体のことも考える。どちらが欠けてもいけない。

「A」評価が予想より少なかった。生徒の多くが、類推はできたが、和辻哲郎の思想を短時間で理解することが難しかったためであると考えられる。

(2) 2時間目

評価結果【思考・判断・表現】　「A」…30%、「B」…70%、「C」…0%

○「A」評価の例
・投票しない人と、政治の話をする。自分はなるべく投票する。
・投票できない人には、さらに制度の充実を、しない人には興味のもてそうな情報を伝える。
・中学や高校で授業に取り入れる。
・いろいろな人がいることを知りながら、自分の意見を考える。

事前インタビューが確実に行われ、多くの世代の意見を反映した結果が得られた。そのため、ほとんどの生徒が十分に思考・判断・表現できていた。しかし、インタビューや「マンダラート」のような活動に時間を割いて取り組むあまり、和辻哲郎の思想を踏まえて前時の結果を深める時間が不足し、「A」評価となった人数は限られた。

6　今後の課題

(1) 事前インタビューの確実な実施

今回は、ほとんどの生徒が、事前インタビューを家庭でも実施することができたが、その多くは政治や経済について話し合える家族環境であったためであり、インタビューが難しい家庭も少なくない点に留意すべきである。

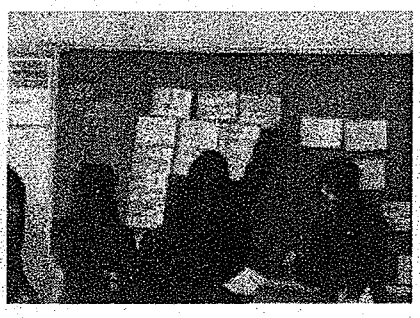
(2) 多面的・多角的な視点の醸成

類推の上、インタビューできた項目については、多面的・多角的な視点を生み、総合的な「思考・判断・表現」の一助とすることができた。一方、類推のみの投票しない理由については、思考の深まりは見られなかった。

(3) 主権者教育に向けた倫理の意義と役割

「主権者教育」＝「投票行為」との考えに偏ることなく、投票に臨む際の自身の価値観や社会の一員としての総合的な判断が重要である。これらの能力の育成のためにも、「倫理」の重要性を改めて自覚する必要がある。

一方、投票は有権者の権利であるので、投票しない人のことを考える必要があるのかという意見も複数あった。この観点も含めて、新たな視点・論点を提示し、思考を揺さぶることで、生徒が他者と共に生きる有権者として成長することを期待したい。



授業日時：　　科目名：

年　　組　　番：氏名

共に生きる社会を目指して1～和辻哲郎の思想から～

個人の在り方を社会と関係づけて考えた日本の哲学者に和辻哲郎がいます。

1　彼の思想を、キーワードから読み取りましょう。

① キーワードを囲みましょう。

② キーワードを説明している部分に下線を引きましょう。

（1）　キーワード「間柄的存在」

簡単に言えば、我々は日常的に間柄的存在においてあるのである。しかもこの間柄的存在はすでに常識の立場において二つの視点から把捉せられている。一は間柄が個々の人間の「間」「仲」において形成せられるということである。この方面からは、間柄に先立ってそれを形成する個々の成員がなくてはならぬ。他は間柄を作る個々の成員が間柄自身からその成員として限定せられるということである。この方面から見れば、個々の成員に先立ってそれを規定する間柄がなくてはならない。この二つの関係は互いに矛盾する。しかもその矛盾する関係が常識の事実として認められているのである。<和辻哲郎『倫理学上』岩波書店>

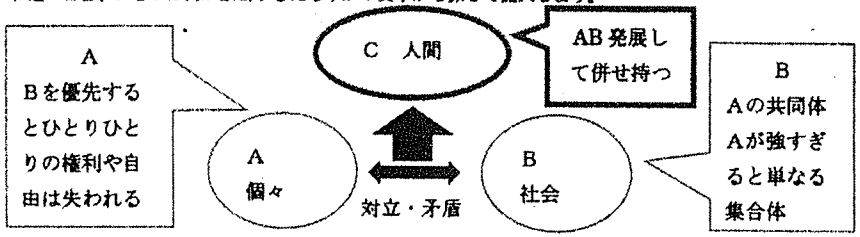
(2)　キーワード「弁証法的統一」

人間とは「世の中」であるとともにその世の中における「人」である。だからそれは単なる「人」ではないとともにまた単なる「社会」でもない。ここに人間の二重性格の弁証法的統一が見られる。……しかも人間は世の中である限り、あくまでも人と人との共同態であり社会であって孤立的な人ではない。それは孤立的な人でないからこそ人間なのである。従って相互に絶対に他者であるところの自他がそれにもかかわらず共同的な存在において一つになる。社会と根本的に異なる別個人が、しかも社会の中に消える。人間はかくのごとき対立的なるものの統一である。この弁証法的な構造を見ずしては人間の本質は理解せられない。<『和辻哲郎全集第10巻』「倫理学　上」岩波書店>

弁証法とは…

18世紀に生まれたドイツの哲学者ヘーゲルが説いた。ある事象Aがあると、それを否定し、矛盾する事象Bが現れる。両者は互いに対立する。この結果、両者を統合する、より発展的な事象Cとなる。すると、Cを否定する事象Dが現れ…

和辻の場合、AとBは何が該当するだろうか？文中から探して記入しよう。



授業日時：　　科目名：

2　あなたの考える「有権者はどのような立候補者に投票するべきか」を和辻哲郎の思想を参考に、考えましょう。

(1)　和辻哲郎の思想を、「共に生きる社会を目指す」という視点からまとめましょう。自分の言葉でまとめるのが難しければ、1（1）（2）の文章を抜き出しましょう。

・個人は絶対的に他者であるが、孤立的な存在ではない
・人間は対立や矛盾も受け入れて社会を作っている。
・個人の意見が強すぎても、社会のまとまりが強すぎてもいけない。

(2)　（1）を実現するために、有権者は、どのような候補者に投票すべきでしょうか。

A…自らの要望を反映して投票/B…投票行動は、社会の一員として投票　　A、Bを弁証法的統一して…
・人のことを考える政策、世の中のことを考える政策の互いの政策の欠点を知っていて、それを補える人
・個々を尊重できる環境を創る候補者

3　次時、インタビューの準備をしましょう。

(1)　相手の立場に立って考えてみましょう。

「あなた」は　（　　）代の（　男　／　女　）性になりきって予想・準備します。
社会的な特徴は…結婚（　　）、子ども（　　）、介護（　　）
労働条件（　正規　／　非正規　）

有権者として…

質問①　重視していることは…
・安全保障（10代/男）　・経済政策（30代/男）　・社会保障（60代/男）
・税金の使途（10代/女）　・雇用政策（20代/女）　・子供の教育（50代/女）

質問②　現在の日本社会で改善してほしいことは…
・税金（10代/女）　・安保（10代/女）　・女性の労働条件（20代/女）
・景気（20代/男）　・少子高齢化（40代/男）　・福祉（60代/女）

☆課題：次時までに該当する年代・性別の人物に、インタビューする！！

実際に質問した結果は、次のプリントに記入します。

(2)　相手の立場に立って考えて、これからの日本でのあなたの在り方生き方はどのように変化しましたか。前後の違いが分かるように書いてください。

以前は…／考えた後は…
・いろんな考えの人がいると思った。
・世代によって考えていることが違うと思う。

ありがとう

【資料1】ワークシート1

【資料2】ワークシート2

授業日時：　　科目名：

年　　組　　番：氏名

共に生きる社会を目指して2～インタビュー&マンダラート

「どの立候補者に投票するか」を投票しない人もふまえて考えましょう。

1　事前インタビューの結果を書きましょう。

「あなた」は　（　　）代の（　男　／　女　）性になりきっています。
社会的な特徴は…結婚（　　）、子ども（　　）、介護（　　）
労働条件（　正規　／　非正規　）

有権者として…

質問①　重視していることは…
・公約を最後までやめない人を選ぶ（40代/男）　・国債（60代/男）
・長期的な展望、世界情勢（40代/女）　・貧富の差の改善（60代/女）

質問②　現在の日本社会で改善してほしいことは…
・物価の安定（20代/男）　・税金の使途（40代/男）
・女性参画社会（30代/女）　・政治の監視体制（40代/女）

2　発表の結果をまとめましょう。特に、自分のインタビューとは異なる意見を記入しましょう。

有権者	男性	女性
高校生～２０歳未満	基地問題 税金	経済 安保撤廃
２０歳～４０歳未満（未婚）	経済 雇用の安定	経済 社会保障
４０歳～６５歳未満（既婚）	社会保障 介護の充実	子育て、教育 社会保障
６５歳以上	社会保障、年金、福祉 安保	年金、介護 貧富の差

3　投票しない人になりきってマンダラートの表を記入しましょう。

1-1 面倒	1-2 現状に満足	1-3 投票に行くのが困難
1-4 意見が反映されない	投票しない理由	1-5 支持したい政党がない
1-6 興味がない	1-7 仕事で行けない	1-8 投票所を知らない

授業日時：　　科目名：

2-1　自分の意見が反映されると思わない	2-2　どの政党にも魅力を感じられない	2-3　何かあったら政府のせいにすればいい
2-4　政治がわからないから嫌い	興味がない	2-5　投票制度や方法について知らない
2-6 ニュースを見ない	2-7 関心を持てない	2-8　自分が社会の一員であるという自覚がない

4　1-1～8の中から一つを選び、クラスＫＪ用紙に記入し、黒板に掲示しましょう。

5　発表の結果をまとめましょう。特に、自分の気付かなかった意見を記入しましょう。

無関心
・興味がない　・面倒
投票できない
・労働者、障がい者、子供連れ　・時間がない、仕事
関心があるが投票しない
・政治に不信感　・支持政党がない　・メディアの偏向放送に不満

6　発表の結果を参考に、投票しない他者と「共に生きる」ために、どのように考え、行動しますか。

・投票する、しないで差別をしない　・投票しない理由や権利を理解する
・投票しない、できない人のことを考えて投票する
・政治の話をしたり、投票という行動を誘ったりする（支持政党を投票させることではない）
・政治に関心を持たせる仕組みが必要
・政治活動を明確にする、わかりやすく説明して興味を持たせる
・WEB投票など方法の改善

7　投票しない理由について考え、あなたが新しく得られた考えは何ですか。
また、これからの社会でどのように生かそうと考え、行動しますか。

・自分は、ちゃんと争点などを把握したうえで投票に行きたいと考えるようになった。
・投票しないのはもったいない。自分たちが今後の日本を作り上げていくのだから、もっと関心を持とうと思った。
・投票できない人や、知的な無投票があることを知った。
・自分の気持ちを曲げてまで投票する必要はないという選択もあると思った。

〔 政治・経済 班 〕

内　容

1　授業実践例紹介

2　授業実践例

①　テーマ「主権者として求められる力を身に付けさせる「ワールドカフェ」の実践」
－話合いを活性化させる工夫－

②　テーマ「課題探究学習を通した主権者教育」
－「シルバーデモクラシー」について考察を深めさせる工夫－

③　テーマ「ディベートを取り入れた主権者教育」
－意見表明力と健全な他者批判力を高めさせる工夫－

④　テーマ「ＰＤＣＡサイクルを意識した課題探究学習」
－政治参加や社会参画する力を育成する取組み－

研 究 員	愛知県立津島東高等学校	森岡　剛洋
	愛知県立碧南高等学校	寄河　忠臣
	愛知県立吉良高等学校	井澤　和史
	愛知県立豊丘高等学校	野﨑　武史
運営委員	愛知県立西春高等学校	岸田　隆

1　授業実践例紹介

昨年配布された副教材「私たちが拓く日本の未来」の指導資料の解説編（P11）には、「公民科の科目「現代社会」、「政治・経済」の年間指導計画を作成する際、副教材の活用場面を想定しておくこと」と記載され、副教材を活用した指導を計画する際の配慮事項がまとめられている。「政治・経済」では、「(1) 現代の政治」の中項目「ア　民主政治の基本原理と日本国憲法」などにおいて副教材を活用することが考えられる。また、生徒向けの副教材の実践編（P30～）には、ディベート、話合い、模擬投票などの具体的な手法が紹介されており、いわゆる「アクティブラーニング」を取り入れた授業を展開する際の参考となる。半年をかけてまとめられたこの冊子には、実践を通して明らかになった課題や具体的な評価方法などについても詳細に記載されているとともに、政治分野のみならず、経済分野や課題探究学習の実践例も紹介されており、年間指導計画を立てる際には、ぜひ参考としてもらいたい。

さて、この政治・経済班において紹介するそれぞれの授業実践例のポイントは、
①身近な提案や主張をテーマとする「ワールドカフェ」を通した「模擬請願」の作成
②「シルバーデモクラシー」についての考察
③２時間連続で行う「ディベート」と「ルーブリック」を用いた評価
④課題探究から次の課題設定につなげる「ＰＤＣＡサイクル」の意識付け
である。それぞれについて簡単に紹介したい。

①では、県や市町村に対する「身近な提案や主張」をテーマに、グループを変えて話合いを繰り返す「ワールドカフェ」を取り入れている。そこでは、思い付きに過ぎない提案から始まり、その理由や根拠、さらにはその提案を実現するための具体的な方策へと話合いの内容を発展させている。最終的には、「ワールドカフェ」で話し合った内容をもとに「模擬請願書」をまとめ、発表することを通して、異なる価値観や対立する利害を調整し共存させる視点から考察させるよう工夫している。

②では、近年の様々な経済政策について調べて発表させた後に、それらの政策がどの年代を意識したものであるかを考察させている。例えば、公的年金制度の給付方式について、積立方式と賦課方式の違いを調べた後、どの年代を意識したものであるかを判断させている。そして、副教材の資料を用いて、「シルバーデモクラシー」や若者の投票率の低さと関連付けながら、よりよい高齢社会の在り方について考察させている。

③では、２時間連続でディベートの時間を設定して、クラスの全員が学習活動に参加することにより、生徒が一人一役にチャレンジし、自らの潜在能力を発揮することができる。また、ディベートを通して、健全な批判力や自分の意見を表明する力を育むことをねらいとしている。評価については、「ルーブリック」（評価基準）を事前に生徒に提示して学習に取り組ませたり、「レーダーチャート」を用いて他者評価を視覚的に行わせたりするよう工夫している。

④では、資料読み取りから「課題発見(P)」→「望ましい解決策についての考察と提示(D)」→「他者による評価(C)」→「解決策の再考察(A)」→「課題発見(P)」→…と、「ＰＤＣＡサイクル」を２度繰り返すことにより、生徒の学びを深めている。日本の財政の現状と将来の人口推計のグラフの提示から、15年後および45年後に予想される課題の発見をスタートに、自分たちができる解決策を考え発表させるとともに、他者からの評価により自分たちの課題を発見させようとしている。さらに、このサイクルをもう一度繰り返すことにより、より望ましい解決方法を導き出しながら、主権者として積極的に政治参加・社会参画への意識を高めさせるための取組みである。

以上のように、いずれの実践も、副教材「私たちが拓く日本の未来」では明確に示されていない、具体的な評価方法や実施上の課題などについてもまとめられているので、副教材に加えてこの冊子を活用しながら、主権者教育の一層の充実を図り、生徒の変化を感じ取ってほしい。

2 授業実践例①

主権者として求められる力を身に付けさせる「ワールドカフェ」の実践

―話合いを活性化させる工夫―

1 指導のねらい

選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられたことに伴い、有権者としての自覚を養うための主権者教育の重要性が高まっている。基本的人権の保障の部分では、自由権、平等権、社会権、新しい人権の後、人権を実現するための権利として参政権・請願権を学ぶ。本研究では、生徒に主権者として求められる力を身に付けさせるために、次の３点をねらいとした授業を行った。

１点目は、メンバーを入れ替えながら、少人数による会話を繰り返す「ワールドカフェ」を取り入れて、活発な話合いを通して考えを深めさせること、２点目は、話合いを通して深まった要求や主張に基づき「模擬請願書」を作成して、主権者として社会に関わり、社会の課題を解決する方法について学ぶことである。高校生が意見を述べる際には、感情的で一面的な意見となる傾向が強い。そこで、自分の意見を主張するだけではなく、他者と共有する社会の問題として具体的に捉えさせるために「模擬請願書」を作成させた。

３点目は、異なる利害や異なる価値観をどのように共存させて暮らしていくのか、優先順位や予算配分という視点をもたせることである。そのために、本実践では、請願書の提出先を、県または市町村とするなど、生徒にとって身近な提案や主張について考えさせることにした。

2 教材等

(1) 教科書「政治・経済」（東京書籍）
(2) 副教材「資料　政・経 2015」（東学）
(3) ワークシート「模擬請願書・ふり返りシート」

3 指導計画

(1) １時間目（２時間）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 １０分	人権を実現するための人権	・憲法第 15 条（参政権）、第 16 条（請願権）を理解する。 ・資料集を用いて、国会請願件数や請願の例について確認する。	・既習の自由権、社会権、平等権、新しい人権などを実現するために必要な権利という視点で考えさせる。 ・参政権・請願権に加えて、署名、出版、集会、裁判などの例を紹介して、人権について幅広く捉えさせる。	

展開 35分	「よりよい社会のために　県・市町村への提案・要求」をテーマとする「ワールドカフェ」	・誰が、誰に、何を、どうやって提案や要求をするのかその方法を学ぶ。 ①４人×10 グループをつくる。 ②各グループで模擬請願書の内容について話し合う。 ③各グループ１名がホストとなり、それ以外は旅人となって別のグループに移動する。 ④第２ラウンドでホストと旅人が第１ラウンドでの話しを共有して、さらに話しを進める。 ⑤第３ラウンドを同様に進める。	・１ラウンド８分間とする。 ・教員はファシリテーターとして、前に出すぎずに話合いのプロセスを重視して自由に話し合える雰囲気をつくる。 ・話合いを活性化させて考えを深めさせるために、次のように段階に応じた声掛けをする。 ①第１ラウンド…思いつきでよいから自由に意見を出させる。 ②第２ラウンド…理由や根拠についても考えさせる。 ③第３ラウンド…実現のための施策や障害についても考えさせる。	◎１
まとめ 5分		・最初のグループに戻り、他グループでの話合いによって得られた気付きについて共有する。	・多様な考えの人と意見交換することの意義や面白さについて体験させる。	

(2)　２時間目（２時間）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展開① 25分	グループ討議 模擬請願書の作成	①前回の話合いでの主張・要求を意見交換する。 ②グループとしての主張を３点に絞る。その理由と根拠についても考える。 ③そのうち最優先事項を一つに絞る。 ・話合いの結果に基づいて、次の内容で請願書をつくる。 ①請願内容 ②請願理由と根拠 ③請願先 ④請願の方法 ⑤予算と財源	・具体的な内容になるように促す。 ・理由と根拠に共感し共有できるかどうか、賛同者を増やして実現の可能性を高めるという視点をもたせる。 ・③の請願先は、県または市に限定するなど、身近な問題として捉えさせる。	◎２

展開② 15分	発表	・発表を希望する３つのグループに請願書を説明してもらう。	・発表を希望するグループに挙手させる。 ・言い間違いや言葉に詰まった時にはサポートする。 ・理解がより深まるように質疑応答を促す。	◎2
まとめ 10分		・他のグループの発表を踏まえて、改めて自分の主張をまとめる。 ・振り返りチェックシートに記入する。	・ワークシートを提出させる。	◎2

(3) 本時の評価規準（◎１について）

【評価の観点】　「関心・意欲・態度」

【評価規準】　グループのメンバーの一人として、他者の意見に真摯に耳を傾け、意見を深めるための話合いに主体的に参加している。

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・グループのメンバーの一人として、他者の意見に真摯に耳を傾け、意見を深めるための話合いに主体的に参加している。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・グループのメンバーの一人として、他者の意見に真摯に耳を傾け、議論が活発になるよう促しながら、意見を深めるための話合いに主体的に参加している。
「努力を要する」状況（C）と評価される例と教師の指導
・他者の意見に耳を傾けることなく、話合いに参加していない。 →他のメンバーに全員が発言できるよう工夫するよう促す。意見がなくても出された意見についてのメモはとるように伝える。

(4) 本時の評価規準（◎２について）

【評価の観点】　「思考・判断・表現」　【評価方法】　ワークシート

【評価規準】　主権者としての視点で、社会に関わり、社会の課題を解決していくための要求・提案とその理由・根拠を文章で表現している。

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・主権者としての視点で、社会に関わり、社会の課題を解決していくための要求・提案とその理由・根拠を文章で表現している。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・主権者としての視点で、社会に関わり、社会の課題を解決していくための要求・提案とその理由・根拠を、客観的な根拠に基づいて適切に文章で表現している。
「努力を要する」状況（C）と評価される例と教師の指導
・社会の課題を解決していくための要求・提案について文章で表現していない。 →話し合った内容を踏まえて要求・提案をまとめるよう指示する。

4　指導上の工夫

(1) １時間目の授業は、書いてまとめるだけではなく、多くの人と話し合うことが目的であることを、２時間目は、提案・主張を理由と根拠を示して文章にまとめることが

目的であることを明確に伝えた。

(2) 思い付いた要求からそれらを実現させる方策や施策について考えさせることにより、「個人の要求の主張」から「その集団がよりよくなるための主張」へと自分の価値観が広まり、深まっていくことに気付かせた。

(3) 身近な要求や主張について考えることを通して、政治的な思考や判断を行う能力である「政治的リテラシー」を育むことを目指した。自己満足に陥ることなく、異なる利害や価値観をどのように共存させながら暮らしていくべきかという視点をもつよう留意させた。

(4) １時間目の導入で、署名活動や集会、デモの写真を紹介するなど、視覚的に訴える資料を用いたことにより、生徒は興味・関心をもって授業に望むことができた。また、導入で用いた写真を、２時間目に考える請願方法の具体的なイメージにつなげることができた。

5 評価

(1) 評価規準設定の重点

ア １時間目は積極的に主張・提案した生徒だけでなく、発表しない者もよく他者の意見を聴いており、内容を文章で的確に表現できた生徒を「A」評価とした。

イ 請願内容とその理由と根拠は、ほぼ全員が１時間目で書くことができた。２時間目で請願先と請願方法、財源まで考えさせたところ、それらの内容を書き変える生徒もあらわれた。話合いを通じて視野の広がりと思考の深まりもあったことが振り返りシートによく書かれていた。請願内容と請願先や財源まで総括的に書き込むことができた生徒を「A」評価とした。

(2) 「C」評価とされた生徒への対応

少人数グループを入れ替えて行ったため、話合いに参加できない生徒はいなかった。また利己的すぎる意見は話合いの中で淘汰されていくので、「C」評価の生徒はいなかった。

(3) 学習活動との関連

「請願権」、「参政権」と合わせて、「集会・結社・表現」の自由、さらに地方自治には「直接請求権」があることを補足説明することで、既習の知識を違う角度から再確認できた。

6 今後の課題

(1) 「ワールドカフェ」は、今後さまざまな場面で応用できる方法で、ＨＲや総合的な学習の時間でも同様に実践した。生徒は生き生きとした表情で授業に臨んでいた。机の配置や　線、時間配分などをより洗練させていきたい。

(2) 同じ内容でも、言葉の使い方や、タイミング、間、抑揚によって受ける印象が変わる。相手にどのように伝えるのか、そのプレゼンテーション能力が重要であるにも関わらず、それを学ぶ機会はほとんどない。この公民の授業で実践しながらその能力を養っていきたい。

(3) 模擬請願の内容は、多くが学校・教育関係のものであった。設定するテーマによって、身近な話題からより視野を広げた話題になる可能性がある。授業を活性化させるには、適切なテーマをタイミングよく示す必要がある。

ワークシート「模擬請願書・振り返りシート」

「よりよい社会のための提案・要求」グループで３点に絞る ・ ・ ・

模擬請願書

① 請願項目
② 理由と根拠
③ 請願先
④ 請願方法
⑤ 予算と財源

振り返りシート

1　実現のために自分にできることは何か。

2　自分の主張・要求を共有してもらうにはどうすればいいか。

3　話合いをより活性化させるためにはどんなルールにすればいいか。

4　授業で学んだこと、授業の感想。

生徒の意見と感想　《抜粋》

模擬請願書　□　請願項目より

「名古屋に巨大なテーマパークをつくって観光客をよびこもう。」
「大学費用を無料化して学ぶ権利を平等にする。」
「日本人は働き過ぎだから週休三日にする。」
「街灯を増やして夜の安全確保と交通事故の防止」
「県立大学を増やして、全国から愛知に学生をよびこむ。」
「教科書をタブレットに　忘れ物を減らしてやる気を増やす。」
「自転車専用道路を増設して安全な通学路にする。」

振り返りシート　4　授業で学んだこと、授業の感想より

「自分ひとりで意見を発表したとしても、他の人に共感してもらわなければ意見として成立しない。自分のことだけではなく、社会全体へどうやってうまく主張していくかが大切だ。」
「些細なことでも提案してみること。いろんな人の話を聴いて、たくさんの人に伝えること」
「考え方が違うから、たくさんの人の意見を聴きたいと思った。」
「小さな不満から、話し合い改善方法を考えるうちに、大きなプロジェクトになるということがわかりました。」
「いざ紙に書いてみると、自分の意見がばかばかしくみえた。でも深いところまで考えてみると、いろいろなことが見えてきておもしろかった。」
「理由と根拠をはっきり持っていれば本当に県に請願できると思った。」
「はじめふざけたように聞こえたみんなの意見が、筋が通っていて納得できた。」
「他人が話したことを自分に取り入れて、さらに進化させてみるとよい。」
「授業で話し合うこともしないで暮らしているより、クラス全員で話し合うことで、何か変わる気がした。」
「ダメだから終わりじゃなくて、どうすればいいかについて話し合いたい。」
「権利を主張するには義務が伴うし、自分の意見を通そうとするなら行動しなければならないということを改めて感じた。」

授業実践例②

課題探究学習を通した主権者教育

ー「シルバーデモクラシー」について考察を深めさせる工夫ー

1　指導のねらい

「高等学校学習指導要領」には、「政治・経済」の目標として、「広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」と記載されるなど、主権者としての資質を身に付けさせるための学習は、従前より行われてきた。

しかし、「政治的・社会的知識が身に付いていないため政治参加は難しい」、「どうやって候補者や政党を選んだらよいか分からない」などの言葉で示されるなど、候補者や政党の政策を知らないことから、生徒の多くが政治参加に消極的となる現状がある。

そこで、少子高齢社会に対応するための具体的な経済政策を取り上げ、その内容を調べたり、発表したりすることにより、少子高齢社会の課題について探究させた。さらに、主権者教育の副教材「私たちが拓く日本の未来」を活用して、「シルバーデモクラシー」の特徴について考察させながら、主体的に政治に参画する態度や政治的に判断する力を身に付け、生徒の主権者としての意識を高めさせる授業実践について考えた。

2　教材

(1) 教科書「政治・経済」（数研出版）
(2) 資料「最新図説　政治・経済」（浜島書店）
(3) 副教材「私たちが拓く日本の未来」（総務省、文部科学省）
(4) ワークシート①、②

3　指導計画（全２時間）

(1) 単元計画（第３章　現代社会の諸課題、ア　現代日本の政治や経済の諸課題、①少子高齢社会と社会保障）

	学習活動	評価規準
第１次（１時間）	【ねらい】我が国の近年の経済政策の内容や特徴について検証し、少子高齢社会における課題や対応策について考えさせる。 課題探究	・経済政策の内容や特徴を検証し、その課題や対応策について考えている。
第２次（２時間）	【ねらい】探究した課題について発表して、近年の政治的課題である「シルバーデモクラシー」について考えるとともに、様々な年代の立場に立って少子高齢社会の在り方について考えさせる。 発表	・聞き手にも分かりやすく、説得力のある発表をしている。
事後	振り返り 課題探究	・「シルバーデモクラシー」について考えるとともに、様々な立場から少子高齢社会の在り方について適切に表現している。

(2) 第１次（１時間）の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入（10分）	本時の説明 グループ分け	・説明を聞いた後、１グループ５～６人に分かれる。	・ワークシート①を配布し、授業の流れについて説明する	
展開（35分）	【ねらい】我が国の近年の経済政策の内容や特徴について検証し、少子高齢社会における課題やその対応策について考察させる。			
	課題設定 課題探究 グループワーク	・近年の経済政策の中から一つを選び、課題を設定する。 ・経済政策の内容や特徴について協力しながら検証する。 ・模造紙等を用いて発表に向けた準備をする。 ・経済政策の検証により気付いた新たな課題とその対応策について記入する。	・経済政策を板書し、話し合って課題を設定するよう指示する。 ・経済政策の長所や短所、対象などを明らかにするよう指示する。 ・新たな課題やその対応策についても考察するよう指示する。	◎１
まとめ（5分）	次回の予告	・説明を聞く。	・次回の発表と学習内容について予告する。	

本時の評価規準（◎１について）

【評価規準】「思考・判断・表現」　　【評価方法】ワークシート①及び観察

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・経済政策の内容や特徴を検証し、新たに気付いた課題について記述している。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・経済政策の内容や特徴を検証し、新たに気付いた課題とその対応策について具体的に記述している。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
・経済政策の内容や特徴を検証しているが、新たな課題について記述していない。 →指導者が課題についてのヒントを与えるなど、記述できるよう支援する。

(3) 第２次（１時間）の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入（5分）	【ねらい】探究した課題について発表し、近年の政治的課題とされる「シルバーデモクラシー」や少子高齢社会の在り方について考察させる。			
	本時の説明	・説明を聞き、発表の準備をする。	・発表の流れを説明し、態度等の注意をする。	
展開①（25分）	発表	・１グループ３分程度で発表する。 ・発表を聞きながら、優れた対応策や優先的に解決すべき課題について考える。	・優れた対応策や優先的に解決すべき課題などを、ワークシート②にメモさせる。	

展開②（15分）	「シルバーデモクラシー」の考察	・副教材を活用して、「シルバーデモクラシー」について考察する。 ・副教材のグラフ（p27）を読み取る。 ・グラフ、発表について再検討する。 ・現代日本の政治状況や今後の社会の在り方について考察する。 ・最も取り組むべき課題やそれに対する施策を段階的に考える。	・副教材のグラフ「我が国の人口ピラミッド」（p27）に注目させ、世代間で投票数に大きな差があることに気付かせる。 ・「シルバーデモクラシー」について説明し、高齢者向けの政治に偏る可能性があることを示唆する。 ・段階的に考えた結果を、ワークシートに記述させる。	◎2
まとめ（5分）	まとめ	・少子高齢社会の在り方について考える。	・高齢者向けの政策と子育て世代向けの政策のバランスをどう図るかについて考察させる。	

本時の評価規準（◎2について）

【評価規準】「思考・判断・表現」　　【評価方法】ワークシート②

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・少子高齢社会に向けた具体的な課題や対策、根拠について記述している。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・少子高齢社会に向けた具体的な課題や対策を段階的に示し、根拠について明確に記述している。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
・少子高齢社会の具体的な課題について記述しているが、その対策に触れていない。 →身近な問題を重視するか、構造的な問題を重視するか、比較するよう支援する。

4　指導上の工夫

今回は、少子高齢社会への対応と財政の健全化をテーマに、よりよい少子高齢社会の在り方や実施上の諸問題について探究させた。2時限目において、主権者教育の副教材「私たちが拓く日本の未来」を活用し、グラフを用いて思考を整理する手法なども取り入れた。特に、「シルバーデモクラシー」についての考察では、現に世代間格差や世代間対立が存在しているという問題に焦点をあてさせるだけではなく、そこから現状をどう分析して、今後そうした課題をどう解決すべきかについても考えさせるよう工夫した。

5　評価

生徒の記述例として、少子化対策については、雇用対策、特に女性の働く環境や男性の育児休暇制度など、一方、高齢者対策については、社会保障関係費の自己負担比率を高めることや、自助・共助の枠組みをつくること、さらに、財政の健全化については、間接税重視への移行もやむを得ない、などがあった。また、直面する多くの経済的課題に対し、解決の困難さを自覚し、現実の問題に対する無力感を訴える生徒もいた。

しかし一方で、自分の将来に深く関わる問題について捉え直すことによって、政治・社会参画への意識や現実の社会に関する問題意識が高まり、「身近なところから問題を解決していくべきである」と記述する生徒もいた。

6　今後の課題

研究の過程で、学習の手立てに気を取られてしまう傾向が強く、ここで身に付けさせたい能力や具体的な評価規準の設定の妥当性などの検証が、後手に回ってしまった。

また、今回の実践では、副教材「私たちが拓く日本の未来」に掲載されている現実の政党の政策比較表（ｐ66～ｐ67）を、社会保障と財政政策に限定して作成させた。それにより、政策の分析につながる取組や、投票の意義について論述させる取組、模擬委員会の実践など、副教材に記載されている他の手法への関連付けも容易になる。今後も主権者教育を充実させるため、生徒が主体的に学習できる様々な方法について研究を重ねたい。

資料１　ワークシート①（第１時限）

１　我が国の少子高齢化に対応して近年実施された経済政策について、それぞれの内容や特徴を検証してみよう。

（あ）公的年金制度について（負担と給付での賦課方式や積立方式の是非）
（い）子育て支援策や高齢者への施策（児童福祉手当や高齢者への支援金など）
（う）財政について（財政赤字の解消やプライマリーバランスの黒字化を含む）
（え）税制について１（消費税増税の延期や軽減税率制度を含む）
（お）税制について２（法人税率下げと国際競争力や雇用、消費税率上げとの関係）
（か）税制について３（ふるさと納税制度の是非）
（き）非正規雇用制度について（その長所と短所について）
（く）最低賃金額の水準について（適正な水準とは）
（け）その他

（１）上の枠内から、少子高齢化対策としてあなたが最も興味を持ったものを選びその記号と理由を書いてみてください。

記号	理由

（２）グループで話し合って探究するテーマを設定しよう。

記号	理由

（３）経済政策の内容や特徴とその長所や短所について話し合って検証してみよう。

経済政策の内容	その特徴（重要な点）
自分が考える長所（メリット）	自分が考える短所（デメリット）
他の人が考えた長所	他の人が考えた短所
政策の対象　＊○をつけて下さい。子育て世帯向け？　or　高齢者世帯向け？ 若者向け　・　30歳～40歳代　・　40歳～50歳代　・　60歳代以上　・　全年齢	

（４）（３）の表をふまえて、次の問いかけあるいはヒントに対して答えてみよう

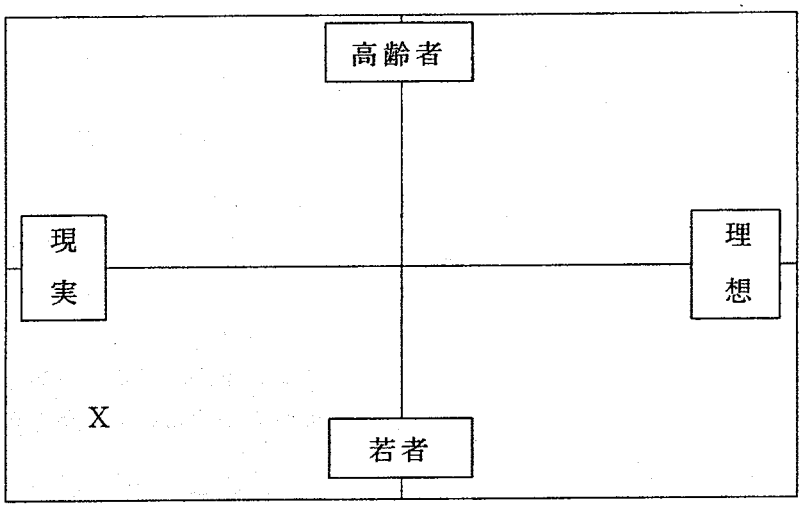
（あ）賦課方式を維持するための費用を誰がどのように負担するのか？
（い）子育て支援策と高齢者支援策の費用対効果を比較するとどちらが効果的か？
（う）財政赤字の解消とプライマリーバランスの黒字化に向けて、何が必要となるか？
（え）消費増税延期や軽減税率制度による歳入減はどうなっているのか？
（お）法人税率引き下げは大企業優遇にすぎないのか、雇用や国際競争力および国全体の経済力の観点からみるとどうなるのか？
（か）ふるさと納税制度によって、都市部と農村部の税収のバランスはどうなるのか？
（き）仕事内容が同一の場合の正規雇用者と非正規雇用者の賃金はどうなっているか？
（く）近年の労働分配率はどうなっているか、また企業内留保はどうなっているのか？
（け）その他

資料２　ワークシート②（第２時限）

（１）発表を聞き、疑問などをメモしておこう。
（２）改めて優先的に取り組むべき経済政策を順位付けしてみよう。

グループ	A	B	C	D	E
経済政策					
強調したこと					
起こった疑問					
優れた対応策					
若者向け？ ○をつける					
高齢者向け？ ○をつける					
優先的に取り組むべき政策 ＊順位付け					

（３）各グループ（Ａ～Ｅ）の発表が、どのような立場を取っているか、図中にＡ～Ｅの記号を記入しよう。
例：Ｘ＝グループＸの発表は、現実的であり、若者の立場に立っていると考える。



（４）副教材のグラフ「我が国の人口ピラミッド」（ｐ27）を参照すると、どのようなことに気づきますか。

（５）発表の内容（３）と（４）をふまえると、現在の日本の政治はどのような状態（政府の施策の力点など）であると思いますか。

（６）これから日本はどのような状態になっていくと想像しますか。

（７）では、前回と今回の学習を踏まえて、あなたが最も取り組むべき課題やそれに対する施策を段階的に説明し、根拠についても書いてください。

（８）最後の質問です。これからの社会をよりよい少子高齢社会とするために、あなたは何をしようと考えますか。

授業実践例③

ディベートを取り入れた主権者教育

―意見表明力と健全な他者批判力を高めさせる工夫―

1　指導のねらい

「高等学校学習指導要領」には、公民科の目標として「公民としての資質を養う」ことが、また、「政治・経済」の目標として「諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」ことが記されている。その目標を達成するため、「政治・経済」の様々な分野で学んだ見方や考え方に基づいて、現実の諸課題を捉え、その望ましい解決のあり方について主体的に考察し、公正に判断する能力や健全な批判力を養うためのディベートを実施した。

ここでは、２時間連続の授業で複数のディベートを実施することにより、全員がディベートに参加し、主体的に学習しなければならない場面をつくった。生徒のもつ潜在的な能力を掘り起こして、「他人に頼る」または「他人に任せる」ことなく、一人一役を担わせるように工夫した。また、ディベートでの発言や意見表明としての「パフォーマンス」を通して、健全な批判力を養いつつ、社会参画するために求められる論理的思考力や意見を表明する力を身に付けさせることをねらいとした。

2　教材

(1) 教科書「高等学校 政治・経済」（第一学習社）
(2) ワークシート[1]・[2]

3　指導計画（３時間）

事前に、グループ分け、グループのテーマ決め、下調べなどの準備をさせるとともに、現時点でのテーマについての自分の考えをまとめさせた。

テーマの例としては、①原発再稼働の賛否（経済分野）、②都市化による人口減少対策の賛否（経済分野）、③義務教育９年間の賛否（政治分野）、④消費税増税への賛否（経済分野）などを想定した。

(1) 第１時限・第２時限（２時間連続での実施）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入6分	ディベートの準備	・ディベート実施上のルールについて確認する。	・実施上のルールとして、以下の点に触れる。 ①発表時間を守る。 ②人間性を否定しない。 ③健全な批判にとどめる。 ④他者評価シートを記入する。	
展開①44分	ディベートの展開（前半）	・「ディベート１」を実施する。 ・ワークシート[1]にメモを取る。（２０分） ・他者評価をする。（２分） ・「ディベート２」を実施する。 ・ワークシート[1]にメモを取る。（２０分） ・他者評価をする。（２分）	・ディベートの流れと時間配分は以下のとおりとする。 賛成派立論３分→反対派反対尋問２分→反対派立論３分→賛成派２分→賛成派反駁２分→反対派反駁２分→反対派最終弁論３分→賛成派最終弁論３分 ・ワークシート[1]に記入させる。	◎1

			・ディベートグループ以外は、「レーダーチャート」(他者評価シート）を利用して、ディベートの勝敗を判定させる。	
展開②44分	ディベートの展開（後半）	・「ディベート３」を実施する。 ・ワークシート[1]にメモを取る。（２０分） ・他者評価をする。（２分） ・「ディベート４」を実施する。 ・ワークシート[1]にメモを取る。（２０分） ・他者評価をする。（２分）	・ディベートの流れと時間配分は以下のとおりとする。 　賛成派立論３分→反対派反対尋問２分→反対派立論３分→賛成派２分→賛成派反駁２分→反対派反駁２分→反対派最終弁論３分→賛成派最終弁論３分 ・ワークシート[1]に記入させる。 ・ディベートグループ以外は、「レーダーチャート」(他者評価シート）を利用して、ディベートの勝敗を判定させる。	
まとめ6分	本時の振り返り	・ディベートを通して、気付いたことや学んだことをワークシート[1]にメモする。	・「レーダーチャート」を回収し、対象のグループに渡す。 ・次回の授業で、テーマについての考察を深め、その結果について表現（パフォーマンス）することを予告する。	

本時の評価規準（◎１について）

【評価の観点】「思考・判断・表現」　【評価方法】　ワークシート[1]

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・自分やチームの考えを表現するとともに、相手からの質問に対して、客観的な根拠に基づいて的確に答えている。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・自分やチームの考えを論理的な根拠をもって表現するとともに、相手の反論に対して、客観的な根拠に基づいて的確に答えている。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
・自分やチームの考えを表現しているが、相手の質問に対して的確に答えていない。 →相手の質問に対して、具体例を用いながら、客観的な根拠をもとに答えるよう促す。

(2) 第３時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入10分	前時の振り返り	・他のグループが作成した「レーダーチャート」を分析し、ディベートの振り返りをする。 ・自分たちのグループのディベートについて話し合う。	・「レーダーチャート」を参考にしてディベートを振り返り、自分の考えが客観的な根拠に基づく説得力のあるものであったかについて考察させる。	

展開35分	「パフォーマンス」(意見発表)	・ワークシート2に基づき、ディベートによって深まった意見について発表するという「パフォーマンス」について考える。（２０分） ・自分の意見を発表するとともに、他の生徒の発表を聞く。（１５分）	・「ルーブリック」(評価基準表)を提示して説明することにより、生徒の活動を活発にする。 ・机間巡視により生徒の活動状況を把握し、必要に応じてアドバイスする。ただし、過剰なアドバイスとならないよう留意する。 ・４班から１名ずつ発表させる。	◎2
まとめ5分	自己評価と本時の振り返り	・ワークシート2に基づいて、他者の意見を踏まえた考察についての振り返りと自己評価をする。	・ワークシート2の提出を指示する。 ・次回の予告をする。	

本時の評価規準（◎２について）

【評価の観点】「思考・判断・表現」　　【評価方法】ワークシート

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・ディベートを通して知った他者の意見を踏まえて、自らの考えを再構築している。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・ディベートを通して知った他者の意見を踏まえて、多面的・多角的な視点から自らの考えを再構築している。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
・ディベートを通して知った他者の意見を踏まえることなく、自らの考えに固執している。→ワークシートや模造紙を見ながら、自分の考えを再構築するよう促す。

4　指導上の工夫

(1)　２時間連続の授業において複数のディベートを実施して、諸課題について主体的に考察させることにより、「政治・経済」への興味・関心を高めさせることができた。生徒が活動せざるを得ない状況をつくりだすことにより、各自が主体的に学習しながら、社会問題に対する健全な批判力や思考力を深めさせるよう工夫した。

(2)　ディベートを実施する前に自分の考えをまとめさせたうえで、ディベート後に「ルーブリック」(評価基準表：生徒の学習活動の到達度を判断する具体的な基準と尺度からなる表）に沿って自らの考えを振り返ることにより、ディベートにおいて知った他者の意見やディベートでの質問や反論に答える活動などを通して、自分の考えを再構築しながら、多面的・多角的な視野から意思決定する力を付けさせた。

(3)　「レーダーチャート」（他者評価シート）を用いて他のグループのディベートを評価することにより、自分のグループの発表がどう評価されたのか、また改善・課題点は何かなど、グループでの振り返りが客観的に行えるように工夫した。

(4)　「ルーブリック」（評価基準表）を事前に提示することにより、自らのパフォーマンス（意見表明）をどう組み立てるべきなのかについて考察しながら、目標を明確にして学習させるよう工夫した。

◆個人ルーブリック　（第３時限用）※（　）内は配点

	論理的思考力	意見表明力
A	自分の考えを論理的に組み立て、わかりやすい文章をもとに、相手に説明している。（５点）	複数の根拠に基づいて、自分の考えを表明している。また、ディベートを通して自分の考えを再構築している。（５点）
B	自分の考えを論理的に組み立て、相手に説明している。（３点）	根拠に基づいて、自分の考えを表明している。また、ディベートを通して、自分の考えを再構築している。（３点）
C	自分の考えを相手に伝えていない。（１点）	自分の考えを表明しているが、根拠が不十分である。また、ディベートを通した自分の考えが再構築できていない。（１点）

5　評価

(1)　「ルーブリック」（評価基準表）において、どのような点が評価されるのかを具体的に示すことにより、生徒が学習のねらいを把握して取り組むことができるよう工夫した。しかし、「ルーブリック」が多岐にわたり複雑化すると、生徒が基準を十分理解できずに混乱を招くおそれがあるため、上記のような、ポイントを絞った「ルーブリック」が有効である。

(2)　いわゆる４観点の中で、特に「思考・判断・表現」を重視し、２時間連続の授業でディベートを実施したことにより、生徒の論理的思考力や健全な批判力など、主権者として求められる力を身に付けさせることができた。

6　今後の課題

ディベートは勝ち負けがすべてではないが、他者評価シートとしての「レーダーチャート」を作成させることにより、他グループのディベートを評価する中で、自分の意見の再構築する際に大きなヒントを与えたものと思われる。この学習をさらに改善するための課題としては、以下の３点が指摘できる。

第一に、今回の「レーダーチャート」では、評価ポイントの３項目を「わかりやすさ」、「信頼・安心」、「情熱」としたが、ディベート後の振り返りにおける議論を活発にするために、わかりやすい項目を用いるなどの工夫も重要である。また、他者評価シートとしての「レーダーチャート」は、見た目もわかりやすく効果的ではあったが、さらに細かい観点で評価させるためには、ポイントの合計を２ポイントではなく、３～５ポイントとする必要がある。

第二に、「ルーブリック」（評価基準表）を事前に提示することは、生徒が学習のねらいを理解しつつ授業に臨むためには有効であるが、過度に詳細な「ルーブリック」を提示すると、生徒が基準を十分理解できず、自由な発想による意見表明を阻害してしまうおそれがあり、提示する項目を精選する必要がある。

第三に、授業の最後の自己評価においては、ごく標準的な「３」の評価とする生徒がほとんどであった。生徒が提出したワークシートにおいて、ディベート前の下調べのデータが不十分で相手をうまく説得できなかったという指摘や、他者の立場になりきれなかったという反省がまとめられていたことから、説得のある根拠の示し方や適切な表現方法について事前にアドバイスしておくことが重要である。

ワークシート1

（第１限・第２限用）

３年　　組　　番　　名前

◆ディベート前の自分の考え　【生徒Ａの記述】

原発再稼働には、反対である。福島の事故を考えれば明らかである。事故が起きたことによって、故郷を捨てざるをえなかった人たちのことを考えると、もう二度とあんな事故が起こってはいけないので、再稼働には反対である。電力供給は、原子力発電以外でできる。現に原子力がなくてもやれた。だから、再稼働はしない方がよい。

■ ディベート時のメモ（裏面使用可）

立論・反対尋問・反駁・最終弁論・（発表者）…自分の係に○を付け記入しよう。

◆他のグループ　ディベートのメモ

◆すべてのディベート後の自分の考え、感想　【生徒Ｂの記述】

普段、気にしない問題など、様々な意見の賛否があって、そんな考え方もあるのかという発見もできて、勉強になった。

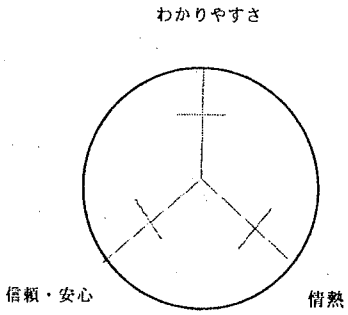
市長の立場になって考えると、市民の命の方が大切だし、政府という国で考えると、市民一人一人の危険性よりも日本の国全体にエネルギーを供給するとなると、これからもエネルギー需要は大きくなってくるので、このことは、「最大多数の最大幸福」という考えを持ち出すと、日本全国民が幸せになるには、やはり、再稼働はすべきになってしまう。

一つの問題は、違う視点から見ると違った意見になってしまい、賛否がわかり合うことは、見る視点を変えないと、難しいことだと思った。

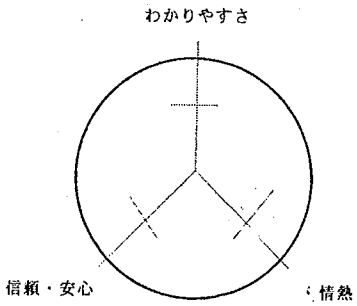
■「レーダーチャート」（他者評価シート）【個人用】

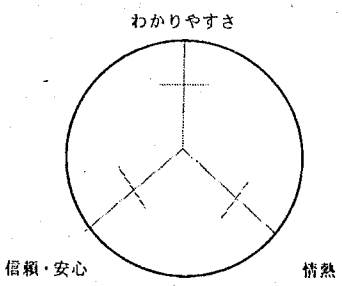
勝ち…２ポイント　　引き分け…１ポイント　　負け…０ポイント

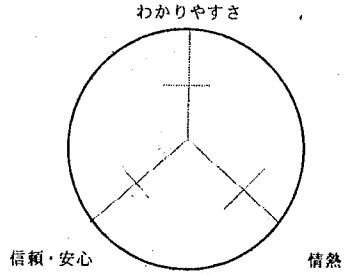
賛成側

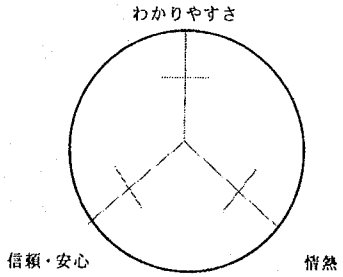


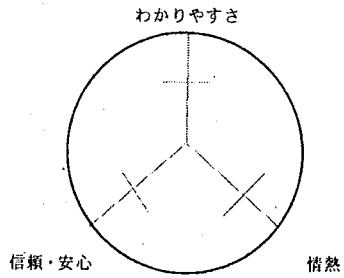
反対側











ワークシート2

（第３時限用）

３年　　組　　番　　名前

■　ディベートを振り返ろう（10分）

❶→　「レーダーチャート」を参考に、チームで振り返りをしよう。【生徒Ｃ・Ｄの記述】

【生徒Ｃの記述】
・考えはあったけれど、根拠となる資料が少ない。
・データの内容が薄く、相手を説得させることができなかった。
・もっと内容を掘り下げると、分かりやすさが上がったと思う。
・発表者が単に言うだけでなく、伝え方を工夫したらパトスが上がったと思う。
【生徒Ｄの記述】
・反対意見の人も納得するようなはっきりとしたデータや情報が足りなく、チーム内でもまとまっていなかった。
・一つ一つの内容が薄かった。
・反対意見を見据えて調べたつもりだったが、他者の立場になりきれていなかった。

❷→　「レーダーチャート」を参考に、グループで振り返えりをしよう。【生徒Ｅの記述】

・チームや反対意見の人と意見交換をするべきであった。
・全体的に時間が余ってしまったので、パトス（情熱）が１になってしまったと思う。
・お互い、チームの意見交換が少なく、内容を掘り下げることが出来なかったから、具体性に欠け、わかりやすさが１になってしまったと思う。

◆個人ルーブリック

	論理的思考力	意見表明力
A	自分の考えを相手に論理立てて、十分わかりやすい文章で、説明することができている。（５）	自分の考えに複数の根拠があり、表明することができた。また、ディベートを通して再構築している内容を十分表現することができている。（５）
B	自分の考えを相手に論理立てて、説明することができている。（３）	自分の考えに根拠があり、表明することができている。また、ディベートを通して再構築している内容がある。（３）
C	自分の考えを伝えることができている。（１）	自分の考えに根拠はあるが、不十分である。また、ディベートを通しての再構築が不足している。（１）

◆「パフォーマンス課題」【個人用】
「ディベートを終えて、自分が参加したディベートのテーマに対する意見を、ルーブリックを参考にパフォーマンスしなさい。」

【生徒Ｆの個人パフォーマンス】

原発再稼働には、福島で起きた放射線が放出されてしまったことにより、周囲の市民が住める環境ではなくなってしまうなど、様々な問題があるが、市民の環境のことだけを思うのであれば、原発再稼働は、望ましいことではないのかもしれない。
しかし、今回のディベートで今が原発を再稼働する時期に一番適しているという意見が出た。私もこの意見に賛成で、今後の世界の電力エネルギー需要は、2035 年までに36％増加する見込みがある。今は、電力が足りているかもしれないし、技術の発展に伴い省電力化が進んでいるのも確かであるが、その技術だけでは、電力がまかなえないことになったらどうなるだろう。電力供給が満足にできなくなれば、日本の工業の稼働が滞り、国内の企業が海外に逃げてしまう原因になるとも考えられる。
そして、日本の経済問題にもつながりかねないと思う。原発の稼働場所は必ずどこかに設けなければならないので、国民全体のことを考えると、再稼働は、必要なことになってくるだろう。安全性について心配という意見が多い気がするが、予期せぬ震災などには、どう対応するかということが問題になってくると思う。
しかし、福島の事故から対策もしっかりとられているので、何か予期せぬ事態には対応できないことがあるかも知れないが、同じことは起こらないと思うので、技術力は進歩していると思う。原子力発電のコストパフォーマンスに匹敵する発電方法の開発が今後の課題である。

◆　発表

◆　自己評価　１　２　３　４　５
コメント　（本時の振り返りをしてみよう。）

授業実践例④

「PDCAサイクル」を意識した課題探究学習
ー政治参加や社会参画する力を育成する取組みー

1　指導のねらい

本実践は、課題探究学習をその場限りものとして完結させるのではなく、探究した結果を、次の課題設定につなげさせようとする取組みである。ここでは、「平成27年度一般会計予算の概要」、「人口ピラミッドの変化」のグラフを利用して、将来を予測させ、そこで挙げられた問題点をどう解決するべきかについて考察させた。それによって、①積極的な政治・社会参加、②さらなる研究の必要性（社会に対する興味関心）、③社会の一員としての自覚など、生徒の政治参加や社会参画に必要な力を育成することができると考えた。また、授業者からの一方的な評価だけでなく、生徒の相互評価も盛り込むとともに、自らの課題探究はその後も継続させるべきものであると自覚しながら、「ＰＤＣＡサイクル」について意識させる実践を行った。

ここでいう「ＰＤＣＡサイクル」とは、「Plan」（課題を設定し、研究の計画を立てる）、「Do」（研究をすすめ、広い視野に立って分析をする）、「Check」（自分だけでなく他者の研究も評価する）、「Action」（今後の社会変化を予想し、次なる課題を発見する）のことである。この「ＰＤＣＡサイクル」は、「ＥＳＤ」（持続可能な開発のための教育）と深く関わるだけでなく、急激に変化する社会に適応し、主権者として積極的に政治参加、社会参画するための力の育成にもつながると考える。

2　教材等

(1) 教科書「政治・経済」（東京書籍）
(2) 授業プリント（５ページ以降）
(3) 資料「平成27年度一般会計予算の概要」（財務省ホームページ）
「人口ピラミッドの変化」（厚生労働省ホームページ）
「我が国財政の現状　ＯＥＣＤ諸国の政府支出及び収入の関係」
（財務省ホームページ）
「社会保障と税の一体改革　将来の社会保障給付費」（財務省ホームページ）
「社会保障と税の一体改革　社会保障と税の一体改革に関するＱ＆Ａ」
（内閣官房・内閣府・総務省・財務省・厚生労働省発行）
「私たちが拓く日本の未来　実践編　第４章　模擬請願」
（総務省・文部科学省発行）

3　指導計画

(1) １時限目

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10分)	財政上の課題について	・**授業プリント①**の資料から、財政上の不均衡が将来世代の負担につながることを読み取る。	・将来世代とは、自分自身のことであることを自覚させる。	
展開	財政について 財政の役割 租税と公債 財政改革	・財政のしくみと機能の基本的な事項と現状・問題点について知る。	・現状と課題を簡潔にまとめて説明する。	

展 開 (35分)	将来の人口推計と問題点	・**授業プリント①②** ***(P1)*** の資料から、15年後と45年後の社会を予想する。	・グラフの読み取り方を説明する。 ・グラフの読み取りや分析が苦手な生徒に対しては適切なヒントを与える。	
	研究の方法と参考資料の提示	・**授業プリント③** ***(P1)*** の参考資料を提示して、資料の収集方法、研究の方法と内容について理解する。	・参考資料だけでなく、生徒が調べた資料も使うよう伝える。 ・調べた資料の出典を明らかにするよう伝える。	
まとめ (5分)	次時の予告 グループ分け １班４～５人	・発表の準備を始める。 ・グループ分けをする。	・次時は、研究レポートを発表することを予告する。	

(2) １時限後～２時限前… ***(D1)***

ア 研究１～３（**授業プリント③**）が進まない生徒に具体的な指示を与える。

（例）資料の収集方法や分析方法など

イ 研究の内容が不十分な生徒に具体的な指示を与える。

（例）参考資料をどのように読み取るか。具体的な解決策を挙げているか。

ウ 発表に向けた準備をさせる。

(3) ２時限目

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展 開 (45分)	グループ内発表と感想	・**授業プリント③④**を基に、グループ内で発表する。（３分程度）	・テーマ、使用した資料、分析結果、結論、感想を簡潔に発表させる。	
	グループ内協議 発表内容の検討	・**授業プリント⑤**を基に、問題解決のために「私たちができること」について考える。	・具体的でかつ実現可能な方法について模索させる。 ・発表内容（**授業プリント⑤**）については、研究結果（**授業プリント③**）を踏まえたものとするよう伝える。	
	役割分担決め	・第１回発表、第１回評価グループに分かれる。 ・第２回発表、第２回評価グループに分かれる。		
	発表と評価（第１回）	・**授業プリント⑤⑥** ***(C1)*** を基に、評価グループは評価シートを記入し、評価の理由を発表する。	・評価グループには、評価方法と着眼点について事前に伝える。	

展 開	ふりかえり	・**授業プリント⑦**を基に、評価グループの発表を受けて、どのような力を身に付けるべきかについて考える。 ***(A 1→P 2)***	・評価グループの発表を参考として考察させる。	
まとめ (5分)	新たな研究の目標	・**授業プリント⑧**をもとに、次回の研究に向けた留意点に着目する。	・より深い研究が必要であることに気付かせる。	

※発表しない班もあるが、すべての班（生徒）に研究・評価の活動をさせる。

(4)　2時限後～3時限前…**授業プリント⑨** ***(D 2)***

2時限目の第1回評価を参考にして、3時限目の第2回発表に向けた研究を深めさせる。生徒に伝える内容については、上記(3)と同様である。

(5)　3時限目

展 開 (40分)	発表と評価（第2回）	・**授業プリント⑨⑩** ***(C 2)***を基に、評価グループは評価シートを記入し、評価の理由を発表する。	・評価グループの発表を参考として考えさせる。	
	新たな研究テーマの設定	・**授業プリント⑪** ***(A 2)***を基に、今後学びたいテーマとその理由について考える。	・研究テーマが⑦⑧と関連していることを意識させる。	◎
まとめ (10分)	振り返りと感想	・**授業プリント⑫⑬**を基に、本実践と「ＰＤＣＡサイクル」との関わりや、社会参画の必要性について理解する。	・本実践の意義と生徒の変化について触れ、将来への展望について意識させる。 ・社会問題を解決するためには、積極的な政治参加が必要であることを理解させる。	◎

本時の評価規準（◎について）

【評価の観点】「思考・判断・表現」

【評価方法】　授業プリント⑪⑫⑬

【評価規準】　「ＰＤＣＡサイクル」を意識して設定した課題に、政治参加や社会参画の観点が含まれている。

「おおむね満足できる」状況(B)と評価される例
・「ＰＤＣＡサイクル」（⑤⑨の発展型）を意識して設定した課題に、「積極的な政治参加や社会参加」、「積極的な研究の必要性」、「将来を担う社会の一員としての自覚」など、政治参加や社会参画の観点が含まれている。
「十分満足できる」状況(A)と評価される例。
・「ＰＤＣＡサイクル」（⑤⑨の発展型）を意識して設定した課題に、具体的な方策を意識した上での「積極的な政治参加や社会参加」、「積極的な研究の必要性」、「将来を担う社会の一員としての自覚」など、政治参加や社会参画の観点が含まれている。

「努力を要する」状況(C)と評価される生徒の例と教師の指導
・設定した課題に政治参加や社会参画の観点が含まれていない。 →⑤⑨を振り返らせ、政治参加や社会参画の観点を含んだ課題設定とするよう伝える。

4　指導上の工夫

(1) 授業プリント①～③での研究を進めるための具体的な資料を提供し、後で振り返ったときに、生徒が「ＰＤＣＡサイクル」を意識しやすくなるよう工夫した。

(2) 研究の成果と既存の知識を関連付けながら、将来の政治参加・社会参画の実践と方法について考察させるよう心がけた。

(3) 本実践の最後には、政治参加や社会参画のために、今回の研究結果を踏まえたより高次元の研究を今後も目指してほしいことを強調した。

(4) この学習を通して、主権者としての自覚が高まり、主体的な態度や将来を見通す力が身に付いたことや、政治参加や社会参画をする際の行動の指針ができたことを生徒に伝える。

(5) 課題探究学習、グループ協議、発表、評価などの活動的な学習を進める際にも、基礎的・基本的な知識・理解は不可欠であるため、最初の時間に基礎的・基本的な知識を習得する場面を設けた。

5　評価

(1) 生徒が著しく変化する将来の社会について予想することができたか。

授業プリント③の生徒の記述から考察すると、多くの生徒（評価「Ｂ」）は社会保障費や国債費の増大による将来世代の負担増を予想することができた。しかし、自分たちの世代が積極的に政治参加すべきであると記述した生徒（評価「Ａ」）は少ない。なお、将来の政治参加・社会参加の必要を強く意識する生徒は、後半の授業プリント⑬の段階になって増えた。

【授業プリント③】（生徒の記述）

・高齢者の割合が高くなり、若い世代の負担が大きくなる。 ・公債金の返済が若い世代の負担として大きくなる。 ・十分な年金が支払われなくなり、高齢者の労働者が多くなる。

【授業プリント⑬】（生徒の記述）

・私たちの世代の負担が大きくなることは明白であり、このような状況を変えていくためには、積極的に政治参加をして意見を言っていくべきだと思った。 ・私たちの世代が政治に無関心ではいけないと思った。私たちがもっと勉強し、政治や経済に関心を持ち、もっと政治に参加すべきであると思った。

(2) 生徒が「ＰＤＣＡサイクル」を意識し、実践することができたか。

授業の前半の段階で、「ＰＤＣＡサイクル」を意識できた生徒は若干名であった。これは、従来から「ＰＤＣＡサイクル」を意識してこなかった生徒が多い証拠であろう。しかし、後半の授業プリント⑪の記述から考察すると、本実践のねらいを理解し、前テーマの評価・分析を受けて、より発展的な課題を設定している生徒が多くなっていることがわかる。また、本実践の最後（２時間目のまとめ）において、「ＰＤＣＡサイクル」について説明されることにより、授業プリント⑬では、今後も「ＰＤＣＡサイクル」を意識していきたいと考える生徒がさらに増えた。

【授業プリント⑪】（生徒の記述）

・財務省ＨＰの「財務大臣になって財政改革を進めよう」にチャレンジしたい。 ・日本の年金制度をもっと詳しく調べたい。 ・私たちの声を政治に届けるにはどんな方法があるか知りたい。 ・諸外国の若者はどんな政治参加をしているのか調べたい。

【授業プリント⑬】（生徒の記述）

・今回の授業では次々に調べたいことが浮かんできた。それを調べていくことが大切だということもわかった。 ・「ＰＤＣＡって何？」思ったけど、今回の授業を振り返ってみると、私たちがやってきたことがＰＤＣＡになっていると思ったし、これからも続けていたいと感じた。

(3) 政治参加・社会参画の意識を高めることができたか。

２時間目の最初の段階までは、政治参加や社会参画に言及する生徒は極めて少なかったが、第１回目の評価後、政治参加・社会参画の意識が高くなっている。そうした意識が高まりは、授業プリント⑦の記述において顕著に示されている。

【授業プリント⑦】（生徒の記述）

・政治に参加しようとする力 ・自分たちから行動しようとする力 ・私たちのできることを政治の場面で発揮する力 ・政治や経済についてもっと知ろうとする力

6 今後の課題

(1) 今後も本実践で意識させた「ＰＤＣＡサイクル」を、他の単元を含めた様々な場面で活用させたい。

(2) 主権者教育の重要性が叫ばれる中、改めて「模擬選挙」などの具体的な手法が紹介されているが、単にそうした手法を模倣するだけでなく、授業研究をさらに深めながら、より高い次元の授業実践を目指したい。

(3) いかなる実践であっても、基礎的・基本的な知識が生徒の学習活動のベースとなることに今後も心がけたい。また、授業の手法や形式にこだわるのではなく、授業のねらいをより明確にした授業実践を目指していきたい。

(4) 将来、目の前の生徒が社会で活躍する場面を想定しながら授業を進めるとともに、生徒にも自分の将来像を具体的に意識しながら授業に臨むよう伝えていきたい。

(5) 上記５(2) の記述にあるように、生徒の興味・関心や主体的な探究心が高まった。生徒たちが、本来もっている旺盛な探究心を、将来の政治参加・社会参画に結び付けていくような授業を今後も実践したい。

授　業　プ　リ　ン　ト

① 次の図は2015年度の一般会計予算を家計に例えた図である。

２０１５年度予算を一般家計に例えると

収　入

給与所得（税収）	545万円
パート収入など（税外収入）	49万円
借金（公債金、国債）	369万円

総収入（歳入）　約９６３万円

支　出

保健衛生費（社会保障）	315万円
仕送り（地方交付税）	155万円
住宅費（公共事業）	60万円
教育費（文教・科学）	54万円
防犯費（防衛費）	48万円
雑費（その他）	95万円
借金返済（国債費）	234万円

総支出（歳出）　約９６３万円

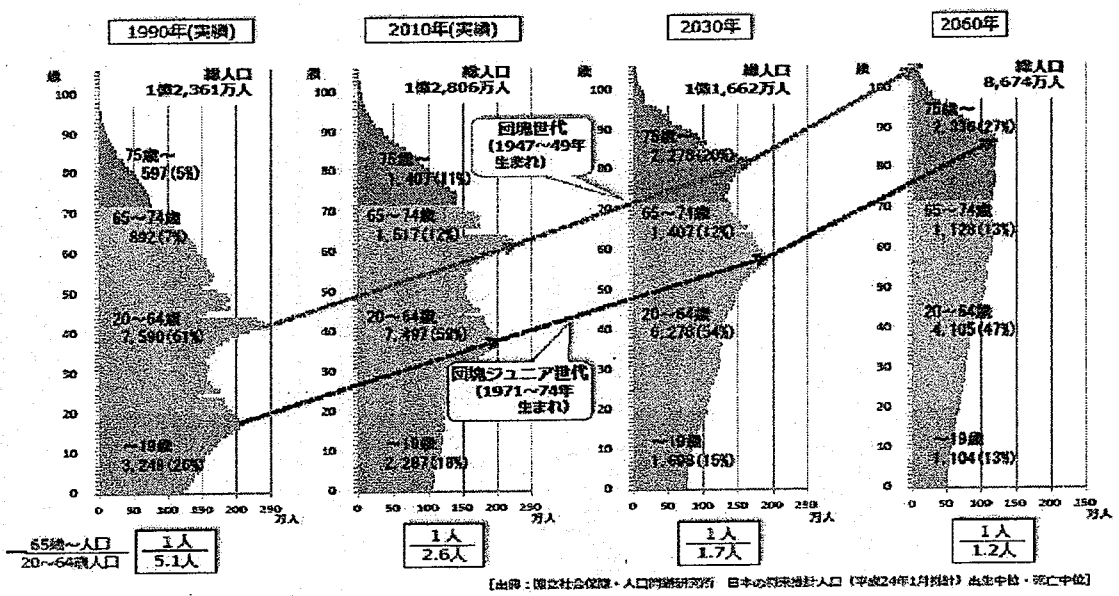
小数点以下は四捨五入

平成27年度一般会計予算（平成27年４月９日成立）の概要（財務省ＨＰ）を参考に作成

歳出のうち（　　）・地方交付税交付金・（　　）が大きな割合を占めており、７割を超えている。それらを支える歳入の３～４割は（　　）でまかなっており、将来世代への負担となっていることがわかる。

② 上記の内容を次のグラフと分析すると、15年後（2030年・30代前半）や45年後（2060年・60代前半）は、どのような問題点があらわれると予測しますか。

人口ピラミッドの変化（1990～2060年）



厚生労働省ＨＰより抜粋

あなたの予測と問題点

2030年（予測）

2060年（予測）

問題点

③　上記の問題点について次にあげる資料を参考にしながら、下記の研究をしてみよう。（下記の資料以外に自分で検索した資料も使ってみよう）

研究１　資料を参考にして、問題点をさらに検証してみよう
研究２　現在、問題点の具体的な解決策としてどのような取組みが行われているか、調べてみよう。
研究３　「私たちができること」というテーマで、問題の具体的な解決策を考えてみよう。

参考資料
・財務省ホームページ　　我が国の財政について
　「Ⅰ．我が国財政の現状　７．ＯＥＣＤ諸国の政府支出及び収入の関係」
・財務省ホームページ　　我が国の財政について
　「Ⅱ．社会保障と税の一体改革　10.将来の社会保障給付費」
・内閣官房・内閣府・総務省・財務省・厚生労働省発行　　社会保障と税の一体改革
　「社会保障と税の一体改革」に関するＱ＆Ａ
・総務省・文部科学省発行　　私たちが拓く日本の未来
　「実践編　第４章　模擬請願」

※あなたが検索し、使用した必要な資料の出典を示してください。
※皆さんの研究・検証を次回の授業でグループ内発表をします。
※収集した資料は、授業プリントといっしょに提出してください。

研究１

研究２

研究３

④　あなたの研究（検証結果）をグループ内で発表しましょう。また、他のメンバーの発表を聞いて、その感想を書いてみてください。

⑤　それでは、グループ内で一つ検証テーマを選び、その問題の解決のために「私たちができること」を話し合ってみましょう。その方法をできるだけ具体的に書き、発表しよう。

⑥　評価グループは評価シートを使って評価してみてください。発表グループの発表が終わったあと、評価を行い、評価した内容の理由を発表してください。

評価シート

1「自分たちができること」が実現可能なものになっているか。　A　B　C　D　E

2 わかりやすい説明（発表）ができたか。　A　B　C　D　E

3 発表内容の中に**積極的な政治参加、社会参画**について言及された部分がある。
A　B　C　D　E

4 発表内容の中に**さらなる積極的な研究の必要性**について言及された部分がある。
A　B　C　D　E

5 発表内容の中に**将来を担う社会の一員としての自覚**について言及された部分がある。
A　B　C　D　E

総合評価　A　B　C
評価の理由

⑦　第１回目の発表・評価を通して、**②で導き出した問題を解決するために**身に付けていきたい、身に付けていくべき力はどんな力だと思いますか。

する力

⑧　⑦の力を身に付けるためには、何をすべきだと考えますか。

⑨　③で考えた問題点の解決のために、「私たちができること」をもう一度考えてみましょう。

⑩　評価グループは評価シートを使って評価してみてください。発表グループの発表が終わった後、評価を行い、評価した内容の理由を発表してください。

⑪　今回の授業を通して、あなたがさらに学びたい・研究したいと思ったテーマとそう思った理由を挙げてください。

テーマ

理由

⑫　まとめ

⑬　感想

平成２７年度高等学校教育課程課題研究
研究報告（公民科）

発行者　高等学校教育課程課題研究（公民研究班）
発行日　平成２８年１月２６日
事務局　愛知県教育委員会高等学校教育課
教科・定通指導グループ
電話　052-954-6787